

平成26年版  
森林総合研究所北海道支所  
年 報

Annual Report 2014



独立行政法人森林総合研究所北海道支所  
Hokkaido Research Center  
Forestry and Forest Products Research Institute

## まえがき

森林総合研究所は、「森林・林業・木材産業に係わる研究を通じて、豊かで多様な森林の恵みを生かした循環型社会の形成に努め、人類の持続可能な発展に寄与する」とのミッションを掲げ、森林・林業・木材産業に関する総合的研究機関としてその役割を果たすべく努力をして参りました。平成 23 年 4 月には第 3 期中期計画（5 カ年）をスタートさせ、25 年度はその 3 年目にあたり、この期間に約束した成果を達成するための大切な年となります。

我が国の森林林業施策の方向性について、21 年 12 月に農林水産省から森林・林業再生プランが出され、22 年 11 月にその実現に向けた具体的な方策をとりまとめた「森林・林業の再生に向けた改革の姿」が示されました。研究機関は、その実現に向け積極的に科学技術的なサポートをしていくことが求められております。その中で、北海道支所は、北方森林の自然力を高度に活用した管理技術の確立を柱として掲げ、これまで積極的に研究を推進してきました。また第 3 期中期計画においては、産学官連携の推進、研究所で得られた研究成果の社会還元を今まで以上に図っているところです。

その一例として、私たちは 25 年度より北海道下川町と共同で、農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業「先進機械を活用した伐採・造林一貫システムによる低コスト人工林管理技術の開発」を開始しました。傾斜の緩い土地が多い北海道の地形を活かした先進的林業機械の利用を中核とし、コンテナ苗による初期造林コストの削減、最適な路網配置などを有機的に結びつけたシステムを作ることが、その目標です。林業再生に向けた低コスト化・高能率化の技術革新が強く求められるなか、林業の現場とタイアップした私たちのこうした研究が北海道の林業振興に役立つことを念じています。

本報告書は、平成 25 年度に北海道支所で行った研究活動、業務の概要をまとめたものです。北海道支所は 2008 年に創立 100 周年を迎えた長い歴史をもつ森林、林業に関する試験研究機関として歩んできました。本年度の報告書にも、上記のような林業研究はもとより、森林の公益的機能を解明し、活用する、多様な研究成果が含まれています。

これからも地域における関係諸機関のご協力、連携のもと、研究を積極的に推進するとともに、様々な広報活動やシンポジウム等によって、皆様と研究成果を共有することに心がけて参りますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。

平成 26 年 12 月

森林総合研究所北海道支所長 牧野俊一

# 平成 26 年版森林総合研究所北海道支所年報

## 目 次

I. 森林総合研究所研究課題一覧	1
II. 平成 25 年度羊ヶ丘実験林鳥類標識調査結果	3
III. 産学官連携報告	10
IV. 広報活動等	11
V. 研究業績	16
VI. 資料	
1. 会議	25
2. 諸行事	26
3. その他の諸会議	26
4. 職員の研修・講習	27
5. 受託出張	29
6. 外国出張	34
7. 研修生の受入	35
8. 来訪者	36
9. 広報活動	37
10. 図書刊行物の収数	38
11. 固定試験地・収穫試験地	39
12. 羊ヶ丘実験林の試験林一覧	40
13. 羊ヶ丘の気象	41
VII. 総務	
1. 沿革	44
2. 土地・施設	45
3. 組織	46
4. 職員の異動	47
5. 職員名簿	48
6. 事業予算額	49

I. 森林総合研究所課題一覧

重点課題		研究機関 (年度)	課題責任者	支所担当者	予算科目	
<b>研究課題群</b>			北海道支所以外の者は所属を括弧書き			
課題番号	研究課題名					
A	<b>地域に対応した多様な森林管理技術の開発</b>		田中浩(研究COD)			
A1	<b>多様な施業システムに対応した森林管理技術の開発</b>		梶本卓也(領域長)			
A1P02	人工林施業の長伐期化に対応した将来木選定の指針策定	23 ~ 25	梶本卓也(領域長)	韓慶民	事業費	一般研究費
A111	コンテナ苗による新たな更新技術の開発	23 ~ 25	山田健(機械技術研究室長)	上村章	事業費	一般研究費
A112	多様な森林施業の確立に向けた樹木の成長管理手法の開発	23 ~ 25	齊藤哲(物質生産研究室長)	韓慶民 関剛 上村章 原山 尚徳	事業費	一般研究費
A113	健全な物質循環維持のための診断指標の開発	23 ~ 25	平井敬三(養分動態研究室長)	相澤州平 橋本徹	事業費	一般研究費
A11S05	土壌養分のアンバランスが樹木の生育に及ぼす影響の解明	23 ~ 25	長倉淳子(養分動態研)	伊藤江利子	事業費	特別研究費(交付金プロ)
A11S07	北海道固有の森林資源再生を目指したエゾマツの早出し健全苗生産システムの確立	22 ~ 25	佐々木 尚三	佐々木尚三 山口岳広 北村系子 飯田滋生 関剛 松井哲哉 相澤州平 橋本徹 上村章	政府外受託事業費	農林水産技術会議事務局実用技術開発(再委託)
A11S10	養分制限を解除したウダイカンバにおけるマスティング資源の配備様式	23 ~ 26	伊藤江利子	伊藤江利子	科学研究費補助	基盤C
A11S15	間伐遅れと窒素飽和の複合作用が森林土壌の炭素蓄積量に及ぼす影響	24 ~ 27	相澤州平	伊藤江利子	科学研究費補助	基盤C
A11S19	林業機械の走行が林床の植生発達と樹木の更新に与える影響の解明	25 ~ 27	倉本 恵生	倉本 恵生 飯田滋生 橋本徹	科学研究費補助金	基盤C
A123	北方育成天然林の資源有効利用に向けた施業管理技術の開発	23 ~ 25	田中信行	山口岳広 石橋聡 飯田滋生 金指あや子 倉本恵生 相澤州平 橋本徹 山野井克己 溝口康子 尾崎研一 佐山勝彦 八巻一成	事業費	一般研究費
A2	<b>森林の機能発揮のための森林資源情報の活用技術の開発</b>		家原敏郎(領域長)			
A2P04	低コストな森林情報把握技術の開発	25 ~ 29	家原敏郎(領域長)	古家直行	政府委託事業費	農林水産省(農林水産技術会議事務局) 委託プロジェクト
A211	多様な森林機能の評価・配置手法の開発	23 ~ 25	鷹尾元(環境変動モニタリングT長)	石橋聡 八巻一成 古家直行	事業費	一般研究費
A21S10	時系列三次元リモートセンシングによる広域森林資源シミュレーションシステムの開発	23 ~ 25	古家直行	古家直行	科学研究費補助金	基盤C(分担)
B	<b>国産材の安定供給のための新たな素材生産技術及び林業経営システムの開発</b>		清野嘉之(研究COD)			
B1	<b>路網整備と機械化等による素材生産技術の開発</b>		陣川雅樹(領域長)			
B1P01	緩中傾斜地に適した低コスト生産システムの開発	23 ~ 26	牧野俊一	山口岳広 石橋聡 飯田滋生 倉本恵生 相澤州平 上村章 橋本徹 伊藤江利子 原山尚徳 嶋瀬拓也 古家直行	事業費	特別研究費(交付金プロ1)
B1P03	先進機械を活用した伐採・造林一貫一貫システムによる低コスト人工林管理技術の開発	25 ~ 27	佐々木尚三	倉本恵生 上村章 伊藤江利子 原山尚徳	政府委託事業	農林水産省(農林水産技術会議事務局) 農食研事業
B2	<b>国産材の効率的な供給のための林業経営・流通システムの開発</b>		堀靖人(領域長)			
B2P02	木材需給調整手法の解明と新たな原木流通システムの提案	25 ~ 27	堀靖人(領域長)	嶋瀬拓也	事業費	特別研究費(交付金プロ)
B211	木材利用拡大に向けた林業振興のための条件と推進方策の解明	23 ~ 25	岡裕泰(林業システム研究室長)	嶋瀬拓也	事業費	一般研究費
B21S08	ITにより低コストに人工林材から内装材を製造する生産・加工システムの開発	23 ~ 25	嶋瀬拓也	嶋瀬拓也	外部資金	(地独)道総研林産試験場 農林水産技術会議事務局実用技術開発(再委託)
B21S10	開かれたコモンズへの移行に関する多面的・体系的アプローチ: 共有林を事例と	24 ~ 26	林 雅秀		科研費	
B21S11	製紙資本における多角化状況の違いが企業自身及び林業・木材産業の発展に与えた影響	25 ~ 29	嶋瀬 拓也		科研費	
B21S12	持続可能な林業構造の解明に向けたセンサス・マイクロデータによる林業経営行動の分析	25 ~ 27	田村 和也		科研費(分担)	
B21S13	皆伐・利用間伐量の都道府県別積み上げによる国産材生産量予測モデルの開発	25 ~ 27	鹿又 秀聡		科研費(分担)	
B21S14	コモンズ利用とネットワーク変容の相互連関に関する比較歴史制度分析	25 ~ 27	林 雅秀		科研費	
D	<b>新規需要の獲得に向けた木質バイオマスの総合利用技術の開発</b>		木口実(研究COD)			
D1	<b>木質バイオマスの安定供給と地域利用システムの構築</b>		陣川雅樹(領域長)			
D111	北海道における木質バイオマス資源作物の生産促進技術の開発	23 ~ 25	韓慶民	山口岳広 韓慶民 飯田滋生 関剛 上村章 伊藤江利子 原山尚徳 尾崎研一 佐山勝彦 石原誠 松浦友紀子 古家直行 上村章 原山尚徳	一般研究費	
D11S02	バイオマス造林樹種ヤナギの高い二酸化炭素吸収能の機構解明	24 ~ 26	上村 章		科学研究費補助金	基盤C

重点課題	研究機関 (年度)	課題責任者	支所担当者	予算科目		
<b>研究課題群</b>		北海道支所以外の者は所属を括弧書き				
課題番号	研究課題名					
E	<b>森林への温暖化影響評価の高度化と適応及び緩和技術の開発</b>	松本光朗(研究COD)				
E1	<b>炭素動態観測手法の精緻化と温暖化適応及び緩和技術の開発</b>	荒木誠(温暖化対応推進拠点長)				
E1P02	森林吸収量把握システムの実用化に関する研究	15 ~27 金子真司(領域長)	相澤州平	政府委託事業	農林水産省(林野庁)	森林吸収源インベントリ情報整備事業
E1P05	葉のオゾン吸収量に基づいた樹木に対するオゾンの影響評価に関する研究	23 ~25 北尾光俊(樹木生理研究室長)	山野井克己	政府外委託事業費	東京農工大	環境研究総合推進費(再委託)
E1P06	森林及び林業分野における温暖化緩和技術の開発	22 ~26 松本光朗(研究COD)	韓慶民 上村章 橋本徹 原山尚徳 尾崎研一 嶋瀬拓也 古家直行	政府委託事業	農林水産省(農林水産技術会議事務局)	委託プロジェクト
E1P07	地球温暖化が日本を含む東アジアの自然植生に及ぼす影響の定量的評価	22 ~26 田中信行	津山幾太郎	政府委託事業	環境省	環境研究総合推進費
E1P08	センサーネットワーク化と自動解析化による陸域生態系の炭素循環変動把握の	24 ~27 山野井克己	山野井克己 溝口康子	政府委託事業	環境省	地球一括
E111	タワー観測を用いた群落炭素収支機能等を表すパラメータセットの構築と評価	23 ~ 25 中井裕一郎(気象研究室長)	山野井克己 溝口康子	一般研究費		
E11S12	過去の土地利用が生態系の炭素、養分の蓄積及び植物の養分利用に与える影響	22 ~25 長谷川元洋(昆虫生態研)	伊藤江利子	科学研究費補助金		基盤C(分担)
E11S15	気候温暖化がシダ植物の種多様性に与える影響の予測と検出	23 ~26 田中信行	田中信行	科学研究費補助金		基盤B(分担)
E11S21	林床植物の生物多様性が土壌CO2フラックスに与える影響の評価	24 ~26 橋本徹	橋本徹	科学研究費補助金		基盤C
E2	<b>森林減少・森林劣化の評価手法と対策技術の開発</b>	新山馨(国際連携推進拠点長)				
E2P05	REDD推進体制整備に関する研究	22 ~26 荒木誠(温暖化対応推進拠点長)	伊藤江利子	政府補助金	農林水産省(林野庁)	国際林業協力事業
E2P06	高精度リモートセンシングによるアジア地域熱帯林計測技術の高度化	23 ~26 鷹尾元(環境変動モニタリングT長)	古家直行	政府委託事業	農林水産省(農林水産技術会議事務局)	委託プロジェクト
F	<b>気候変動に対応した水資源保全と山地災害防止技術の開発</b>	高橋正道(研究COD)				
F1	<b>環境変動・産業等が水資源・水質に与える影響評価技術の開発</b>	金子真司(領域長)				
F1P04	地球温暖化が森林及び林業分野に与える影響評価と適応技術の開発	22 ~26 高橋正道(研究COD)	山野井克己 溝口康子 尾崎研一	政府委託事業	農林水産省(農林水産技術会議事務局)	委託プロジェクト
F1P05	アジア地域熱帯林における森林変動の定量評価とシミュレーションモデルの開発	23 ~26 玉井幸治(水保全研究室長)	伊藤江利子	政府委託事業	農林水産省(農林水産技術会議事務局)	委託プロジェクト
F1P12	森林流域からの水資源供給量に関わる気候変動の影響評価	25 ~ 29 玉井幸治(水保全研究室長)	延廣竜彦	政府委託事業	農林水産省(農林水産技術会議事務局)	委託プロジェクト
F111	森林における水文過程の変動予測手法の開発	23 ~ 25 玉井幸治(水保全研究室長)	相澤州平 延廣竜彦	事業費		一般研究費
G	<b>森林の生物多様性の保全と評価・管理・利用技術の開発</b>	小泉透(研究COD)				
G1	<b>シカ等生物による被害軽減・共存技術の開発</b>	佐橋憲生(領域長)				
G1P06	林業被害軽減のためのニホンジカ個体数管理技術の開発	22 ~25 小泉透(研究COD)	松浦友紀子	政府委託事業	農林水産省(農林水産技術会議事務局)	実用技術開発
G1P07	支笏洞爺国立公園をモデルとした生態系保全のためのニホンジカ捕獲の技術開発	23 ~25 高橋裕史(関西・生物多様性G)	松浦友紀子	政府外委託事業	酪農学園大	環境研究総合推進費(再委託)
G111	生態情報を利用した環境低負荷型広域病虫害管理技術の開発	23 ~ 25 佐橋憲生(領域長)	石原誠	事業費		一般研究費
G112	野生動物管理技術の高度化	23 ~ 25 岡輝樹(野生動物管理T長)	平川浩文	事業費		一般研究費
G11S15	ニレ類立枯病の日本における被害発生リスク評価	23 ~25 升屋勇人(森林病理研)	山口岳広 石原誠	科学研究費補助金		基盤B
G11S46	エゾシカの肉質における科学的評価基準を作る	25 ~ 25 松浦 友紀子		政府外委託事業	ノーステック財団	助成金
G2	<b>生物多様性を保全するための森林管理・利用技術の開発</b>	伊藤賢介(領域長)				
G2P04	生態系保全政策のための森林の生物多様性変動シミュレータの構築	21 ~25 岡部貴美子(昆虫多様性T長)	尾崎研一	政府委託事業	環境省	地球環境保全等試験研究
G2P06	レプンアツモリソウをモデルとした人を含む在来生態系と共生できる絶滅危惧種	21 ~25 河原孝行(四国・調整監)	北村系子 八巻一成	政府委託事業	環境省	地球環境保全等試験研究
G2P11	人工林の保残伐がもたらす生態系サービスを大規模実証実験で明らかに	25 ~29 尾崎研一	尾崎研一	科学研究費補助金		基盤A
G212	野生動物の種多様性の観測技術および保全技術の開発	23 ~ 25 大井徹(鳥獣生態研究室長)	平川浩文	事業費		一般研究費
G213	森林の生物多様性の質と機能の評価手法の開発	23 ~ 25 伊藤賢介(領域長)	尾崎研一 佐山勝彦	事業費		一般研究費
G21S34	ブナ林堅果豊凶メカニズムの解明:花芽形成期における資源の需給バランスの	25 ~ 28 韓慶民	韓慶民	科学研究費補助金		基盤B
G21S38	島嶼における北限ブナ林の植生および遺伝変異の地理的構造と地史的な成立過程	25 ~ 27 北村系子	北村系子	科学研究費補助金		基盤C(分担)
G21S39	人工林において生物多様性保全と木材生産は両立できるか?	25 ~ 27 尾崎研一	尾崎 研一 佐山 勝彦	政府外委託事業	(地独)道総研	住友財団(分担)
G21S40	人種スズメバチに社会寄生するチャイロスズメバチの分布域と生息密度の増大	25 ~ 27 佐山勝彦	佐山勝彦	科学研究費補助金		基盤C
I	<b>森林遺伝資源を活用した生物機能の解明と利用技術の開発</b>	篠原 健司				
I2	<b>ゲノム情報を活用した森林植物の遺伝的多様性の解明と保全・評価技術の開発</b>	津村義彦(領域長)				
I211	ゲノム情報に基づく森林植物の遺伝的多様性の解明と評価手法の開発	23 ~ 25 水元博義(生態遺伝学T長)	金指あや子	事業費		一般研究費
I21S07	一回結実性ササ属の開花メカニズムと花成遺伝子発現様式の解明	23 ~26 北村系子	北村系子	科学研究費補助金		基盤B
I21S08	個体群生態系と繁殖生態系の融合による植物の生活史研究の包括的展開	23 ~25 北村系子	北村系子	科学研究費補助金		基盤B(分担)
I21S20	北方針葉樹における標高適応に関わるフェノロジーの分子遺伝機構	25 ~27 上野真義(針葉樹ゲノム担当T長)	北村系子	科学研究費補助金		基盤B(分担)
K	<b>基盤事業</b>					
K101	森林水文モニタリング	23 ~ 27 落合博貴(研究COD)	山野井克己	事業費		基盤事業費
K103	森林の成長・動態に関する長期モニタリング	23 ~ 27 田中浩(領域長)	飯田滋生	事業費		基盤事業費
K105	降雨漢流水質モニタリング	23 ~ 25 金子真司(領域長)	相澤州平	事業費		基盤事業費

## II. 平成25年度羊ヶ丘実験林鳥類標識調査結果

契約職員 川路 則友

### 【はじめに】

北海道支所実験林（以下、羊ヶ丘実験林）では、平成元年から環境省受託事業である鳥類標識調査（以下、バンディング）を継続的に行っており、毎年度の結果については平成15年度以降、北海道支所年報に逐次掲載してきている（たとえば、川路2014）。さらに、20年間の結果をもとに羊ヶ丘実験林に生息する鳥類の渡り傾向等について大まかなまとめを行い、公表した（川路・河原2013）。バンディング事業の意義等については、山階鳥類研究所のホームページ

[http://www.yamashina.or.jp/hp/ashiwa/ashiwa\\_index.html#09](http://www.yamashina.or.jp/hp/ashiwa/ashiwa_index.html#09)

を参照されたい。調査は鳥類標識調査員として登録された職員2名（河原孝行および川路則友）により、それぞれが北海道支所に在籍した期間に応じて行ってきたが、平成24年4月に河原が四国支所へ異動して以降は川路のみで調査を行っている。羊ヶ丘実験林ではこれまでに合計5万5千羽もの鳥類をあらたに捕獲、放鳥している。北海道支所においては、バンディングを単なる受託事業として行うだけでなく、その成果を実験林に生息する森林性鳥類の渡り傾向、繁殖生態の解明研究にも積極的に応用してきた（たとえば、川路1996、川路・広川1998など）。また、例年行っている春秋の渡り期、巢内ヒナへのバンディングに加えて、今年度から「標準化された標識調査による鳥類繁殖モニタリング（以下、繁殖鳥モニタリング調査）」に参加することとした。これは、鳥類の保護管理に資する目的で、おもに繁殖地における定期的、定量的に標準化された手法を用いた捕獲調査により、個体群の季節変化、年変化、幼鳥の割合、成鳥の生存率などのモニタリングを長期間継続するもので、海外ではたとえばイギリスのCES（Constant Effort Sites）プロジェクト、アメリカのMAPS（Monitoring Avian Productivity and Survivorship）プログラムなど、これまで長期間にわたって貴重なデータが蓄積されている。わが国では、山階鳥類研究所の主導で、東日本大震災の影響把握のための鳥類個体群動態モニタリング調査として、2012年から全国で開始されている。

### 【材料と方法】

平成25年度は4月27日から11月4日までの間で合計57日間の調査を行った。春秋の渡り期にはおもに実験林内を通過する渡り鳥に、繁殖期には実験林内で営巣するヤブサメ、センダイムシクイ、コルリといった森林性鳥類の巢

内ヒナに足環を付け放鳥したほか、定期的に繁殖鳥モニタリング調査を行った。

調査には、鳥類標識調査用の鳥獣捕獲許可（学術研究用捕獲許可の一種）を取得し、実験林内3林班、5林班、6林班、7林班および8林班の適当な場所に捕獲用網（カスミ網）を設置して行った。調査はおもに早朝（日の出時刻前後）から開始し、捕獲効率が低下する（川路1996）とされる9:00amころまでで調査を終えた。網場の見回りはなるべく頻繁に行い、捕獲された鳥類への負担が少なくなるように努めた。また足環の装着後、必要に応じて観察、体部計測等を行ったのち、すみやかに放鳥した。巢内ヒナへのバンディングは、その種の成鳥に付けるものと同じサイズの足環が付けられるほどにじゅうぶん脚部が成長し、しかも巢から強制巣立ちさせることのないタイミングを選んで、さらに巣に捕食者を誘引することのないように注意しながら慎重に行った。使用したカスミ網のサイズ、調査地環境等については、これまでとほぼ同様である（詳しくは河原・川路2011参照）。

今年度から開始した繁殖鳥モニタリング調査については、羊ヶ丘実験林の6林班と8林班内に1箇所ずつ固定調査地を設け、それぞれカスミ網（HTX、30mmメッシュ×12m）を5枚ずつ張った。5月末から8月中旬までを10日間ずつ8つの期に分け、各期で1回ずつ合計8回の調査を行った。調査は、日の出時刻もしくは午前4時のどちらか遅い方の時間に開始して6時間の間、網を開いて行った。捕獲した鳥類には、環境省標識調査用の金属製番号付き足環を装着したのち、捕獲時間、網番号、性、齢、自然翼長、最大翼長、体重を測定、記録した。また脂肪量、抱卵斑、総排泄腔突出、換羽状況などの観察、記録を行った。これらは、すべて山階鳥類研究所保全研究室が作成した繁殖鳥モニタリング調査マニュアル（第1版）に従ったものである。

### 【結果と考察】

平成25年度は、合わせて40種1,544羽（新放鳥1,426羽、再捕獲118羽）を捕獲、放鳥した（表1）。1日あたりの放鳥数は27.1羽であった。

もっとも放鳥数が多かったのは、アオジで302羽（全体の19.6%、新放鳥276羽、再放鳥26羽、以下そのように表記）であり、ついでヤブサメ267羽（17.3%、237羽、30羽）、クロツグミ244羽（15.8%、235羽、9羽）、キビタキ148羽（9.6%、132羽、16羽）、ルリビタキ105羽（6.8%、



図一 明確な抱卵斑を持つクロジメス成鳥

102羽、3羽)の順であった。アオジがもっとも多い傾向は例年と同じであるが、放鳥数は昨年の1/2と少なかった。これは、総調査日数が昨年に比べて少なかったことと、アオジの秋季渡りの最盛期に調査が行われなかったことによる。そのほかの鳥種については、昨年と類似している。

春季の渡りでは、例年多く捕獲されるルリビタキがそれほど多くなく、ほとんど渡りのピークは見られない状態であった。これは調査日数の減少、天候コンディションの悪い日が多かったことが原因と思われる。

繁殖期における巣内ヒナへのバンディングでは、営巣を確認し、繁殖経過をモニタリングしたヤブサメ6巣(巣内ヒナ33羽)、センダイムシクイ7巣(同34羽)、コルリ1巣(同5羽)で合計72羽のヒナに標識を付した。さらに羊ヶ丘実験林内ではないが、苗畑で育雛中のホオジロの巣が発見されたことから、その巣内ヒナ5羽にも標識を付した。また、昨年同様、センダイムシクイの巣に托卵し、巣内でふ化したのち仮親に育てられていたツツドリヒナ1羽にも標識した。これらの巣内ヒナへのバンディングは、確実に羊ヶ丘実験林で生まれた個体に標識付けをすることで、のちに回収された場合、渡り途中の個体を捕獲しバンディングしたものに比べて、寿命、起始点からの移動、帰還率等をより正確に判断できることが期待される。

秋季の渡りでは、例年どおりアオジの捕獲数が増加した。しかし、1日に100羽以上新放鳥した日が、わずかに10月5日の1日だけであった。また、8月中旬にはすでにセンダイムシクイ、エゾムシクイの渡り個体群の小さなピークが見られたほか、8月下旬にはヤブサメ、キビタキ、メジロが多くなり、次いで9月以降にクロツグミ、アオジのそれぞれピークが続くといった例年通りのパターンが見られた。

標識鳥の回収については、リピート(Rp、羊ヶ丘実験林で放鳥されたあと6ヶ月以内に同地で再捕獲された場合)

が82羽と最も多く、リターン(Rt、羊ヶ丘実験林で放鳥したあと6ヶ月以上経過して同地で再捕獲された場合)が36羽であった。リカバリー(Rc、羊ヶ丘実験林もしくは5km以上離れた他所で放鳥された個体が5km以上離れた別の場所もしくは羊ヶ丘実験林で再捕獲された場合)は3例報告された。

リターン(Rt)記録は、通常の野外観察では個体識別の困難な野生鳥類の寿命を知るうえで貴重なデータとなる。新放鳥後約2年以上経過して、平成25年度内に再度羊ヶ丘実験林で回収されたものは12例あり、それらを表2に示した。そのうち、オオアカゲラ(メス)、ヤマガラ、メジロおよびセンダイムシクイ(いずれも性不明)については、今回再捕獲された記録が同種(同性)における羊ヶ丘実験林での最長寿記録となった。

リカバリー(Rc)記録の3例を表3に示した。一つは2011年10月9日に新放鳥したウグイス(オス・幼鳥、河原放鳥)が、2013年11月1日に新潟県新潟市関屋海岸で回収されたものである。直線距離で509km、新放鳥から754日経過後の回収であった。ウグイスはこれまで2009年4月19日に島根県松江市で放鳥された個体(メス・第一回冬羽)を2010年5月8日に河原が回収した例がある(河原・川路2011)ことから、今回は本州以南と羊ヶ丘実験林との間での2回目のリカバリー(Rc)記録となる。なおウグイスは、道内では、これまでに石狩市、根室市、上川郡比布町と羊ヶ丘実験林との間での3例の回収記録がある。

次の記録は、2013年10月5日に新放鳥したアオジ(オス・幼鳥、川路放鳥)が、わずか25日後の10月30日に696km離れた長野県塩尻市で回収されたものである。アオジはこれまで新潟県新潟市との間で、それぞれ18日と22日という回収例があるが(川路2014)、今回のものはそれに次ぐ短期間での回収であった。なお、2002年10月9日に羊ヶ丘実験林で放鳥した個体(メス・幼鳥、河原放鳥)が2003年11月14日に長野県埴科郡戸倉町(現在の千曲市)で回収された例があるので、長野県とは2回目の回収例となる。アオジのこれまでの羊ヶ丘実験林と本州以南とのやりとりでは、新潟県新潟市、福井県越前市、京都府南丹市、岡山県岡山市、長野県佐久市、同県千曲市および岐阜県加茂郡の例がある(川路・河原2012)。このことから、アオジは羊ヶ丘を出て、近畿地方北部まで一気に日本海側沿岸を南下するものと、新潟市付近で分かち、長野県や岐阜県など内陸に入っていくコースを通るものがあることが推測される。そのほか、2013年9月23日に放鳥したクロツグミ(性不明・第一回冬羽、川路放鳥)が20日後の10月3日に苫小牧市で回収された(表3)。





今年度から開始した繁殖鳥モニタリング調査では、19種143個体が調査期間中に新放鳥およびリターン (Rt) 回収された (表4)。また調査期間中にリピート (Rp) 回収されたのは、6種24羽であった。そのうち、クロジ、オオムシクイおよびアリスイを除く16種については、すべてこれまで実験林内で活動中の巣を確認した記録があり、今回の捕獲時でも、抱卵斑や総排泄腔の突出などの形態的繁殖特徴が見られたことから、繁殖していることは確実である。クロジはこれまで羊ヶ丘実験林内で巣を確認したことはないが、繁殖期間中に時折り活発なさえずりが聞こえていた。今回の調査期間中にオス1羽、メス2羽および性別不明の幼鳥2羽が捕獲された (表4)。そのうち6月16日に捕獲されたオスは、頭部や下面の色合いから、第一回夏羽の羽衣状態と思われたが、顕著な総排泄腔の突出が見られ、さらに抱卵斑もわずかに認められた。メスは、7月4日と7月21日に捕獲されたが、それぞれ別個体で、いずれにも明確な抱卵斑が認められた (図1)。クロジは、オスも抱卵する (江崎ら 2007) ことから、捕獲された時点で抱卵期に入っていたと思われ、これまで巣は見えていないものの、羊ヶ丘実験林内でクロジが繁殖している可能性が強く示唆された。幼鳥は8月10日に捕まったが、まだ幼羽が全身に残っている状態であった。

オオムシクイは5月31日に成鳥2羽を捕獲したが、総排泄腔の顕著な突出もしくは抱卵斑は見られず、鎖骨間および腹膜に脂肪の蓄積が認められた。本種は羊ヶ丘実験林で毎年6月初旬～下旬にかけて多くの個体が観察され、活発なさえずりも聞こえるが、7月にはまったくいなくなる。今回はおそらく、まだ渡り途中での個体を捕獲したものと思われた。またアリスイは8月3日に幼鳥1羽 (性別不明) を捕獲したが、脂肪蓄積は認められなかった。しかし、捕獲されたのがわずか1羽であったこと、これまで繁殖期間中に羊ヶ丘実験林内で本種成鳥の観察、捕獲もしくはさえずりなどの確認がまったくないことから、捕獲された個体は羊ヶ丘実験林で生まれたものではなく、他所で巣立ちした後に一時的に移動してきた個体と思われた。

今年度から新たに開始した繁殖鳥モニタリング調査は、本来、繁殖鳥類個体群に見られる長期変動傾向などの把握を目的とするものであるが、今年度は新たにクロジの繁殖可能性を強く示唆する結果が得られるなど、非常に興味深い事実が判明した。今後も本調査を継続することにより、羊ヶ丘実験林における繁殖鳥の状況がより明らかになることが期待される。

#### [文献]

江崎保男・馬場 隆・掘田昌伸 (2007) 森林性 *Emberiza* ク

ロジの繁殖生態、なわばりへの帰還 と行動圏の著しい重複. 山階鳥類学雑誌 38(2): 67-79

河原孝行・川路則友 (2011) III. 平成22年度羊ヶ丘実験林鳥類標識調査結果. 平成23年版森林総合研究所北海道支所年報:24-30

川路則友 (1996) 春の渡り期における林床性鳥類捕獲数の日周変化. 日本鳥学会誌 45(3): 175-182

川路則友 (2014) II. 平成24年度羊ヶ丘実験林鳥類標識調査結果. 平成25年版森林総合研究所北海道支所年報:5-10

川路則友・河原孝行 (2013) 羊ヶ丘の鳥はどこから来て、どこへ行く? 北の森だより 10: 4-8

川路則友・広川淳子 (1998) ヤブサメにおける Complete post-juvenile moult について. 日本鳥類標識協会誌 13(1): 1-7

日本鳥学会 (2012) 日本鳥類目録改訂第7版. 日本鳥学会. 三田.

表-2. 初放鳥後2年以上経過して平成25年度調査中に再捕獲された個体と経過年月

種名	足環番号	性	初放鳥日	再捕獲日	経過年月	平成24年度までの同種(同性)における最長経過年月 (羊ヶ丘)
アオジ	02Y74470	オス	2008/4/23	2013/4/29	5年0月	7年7月
アオジ	02Y74618	オス	2008/9/22	2013/9/27	5年0月	7年7月
オオアカゲラ	05B70150	メス	2010/5/6	2013/7/13	3年2月*	-
ヤブサメ	01F30309	メス	2010/5/15	2013/5/17	3年0月	3年8月
ヤブサメ	01F30237	不明	2010/5/9	2013/5/18	3年0月	3年1月
ヤマガラ	2AD41001	不明	2010/11/7	2013/9/5	2年10月*	2年1月
クロツグミ	04C77315	メス	2010/10/17	2013/6/23	2年8月	3年10月
キビタキ	01F59598	オス	2011/5/25	2013/9/19	2年3月	4年11月
センダイムシクイ	01F59568	オス	2011/5/25	2013/7/4	2年2月	5年11月
メジロ	01B65324	不明	2011/9/21	2013/10/6	2年1月*	2年0月
キビタキ	01F59645	オス	2011/9/9	2013/9/19	2年0月	4年11月
センダイムシクイ	01F59529	不明	2011/5/17	2013/5/19	2年0月*	-

\*平成25年度のものが最長となった記録

表-3. 平成25年度に判明した標識個体の移動回収記録

種名	足環番号	性	年齢	放鳥年月日 回収年月日	放鳥場所 回収場所	経過日数	距離
ウグイス	2AE09011	M	J	2011/10/9	森林総合研究所北海道支所実 験林 新潟市中央区関屋海岸	754日	509km
		M	A	2013/11/1			
アオジ	2AF10624	M	J	2013/10/5	森林総合研究所北海道支所実 験林 長野県塩尻市	25日	696km
		M	J	2013/10/30			
クロツグミ	04B66268	U	1W	2013/9/23	森林総合研究所北海道支所実 験林 北海道苫小牧市	20日	33km
		F	J	2013/10/13			

M: オス、F: メス、U: 性不明、A: 成鳥、1W: 第一回冬羽、J: 幼鳥

表-4. 平成25年度における繁殖鳥モニタリング調査の捕獲結果

種名	オス		メス		性不明	幼鳥	合計	
	N+RT	RP	N+RT	RP	N+RT	N	N+RT	RP
1 ヤブサメ(*)	12	9	5	3	1	10	28	12
2 アオジ(*)	7	2	7	1		12	26	3
3 センダイムシクイ(*)	7	1	1	1	3	7	18	2
4 クロツグミ(*)	5	2	4	1		4	13	3
5 キビタキ(*)	2		2			7	11	
6 エゾムシクイ(*)					2	8	10	
7 コルリ(*)	3	2				2	5	2
8 モズ(*)	1					4	5	
9 クロジ	1		2			2	5	
10 アカゲラ(*)			1			3	4	
11 ウグイス(*)	2					1	3	
12 コガラ(*)	1					2	3	
13 メジロ(*)	1			2		1	2	2
14 ハシブトガラ(*)	1					1	2	
15 オオムシクイ					2		2	
16 オオアカゲラ(*)			1			1	2	
17 コゲラ(*)			1			1	2	
18 シジュウカラ(*)	1						1	
19 アリスイ						1	1	

N: 新放鳥(Newly Banded)、RT: リターン(Return)、RP: リピート(Repeat)

\* 実験林内で活動中の巣を発見したことのある種

### Ⅲ. 産学官連携報告

(無し)

#### IV. 広報活動

名称：平成25年度森林総合研究所（北海道支所・林木育種センター北海道育種場・森林農地整備センター札幌水源林整備事務所）一般公開

日時：平成25年6月29日 9:30～15:30

参加者：303名

主催：北海道支所・林木育種センター北海道育種場・森林農地整備センター札幌水源林整備事務所

概要：一般の方が普段は立ち入れない実験林内を案内したエコツアーや、普段利用いただいている樹木園内のガイドでは、参加者から多くの質問を受けました。

北海道育種場は「挿し木体験コーナー」を、札幌水源林整備事務所は「押し葉のしおり作り体験コーナー」を担当し、多数の参加をいただきました。



実験林エコツアー



樹木園ガイド



挿し木体験コーナー



押し葉のしおり作り体験コーナー

名称：第1回森林講座（通算第62回）

日時：平成25年6月29日 12:00～13:00

場所：標本館

演題（演者）：「誤解してませんか？スズメバチのこと」（牧野俊一）

参加者：約30名

概要：スズメバチの生態や習性等について分かりやすく解説しました。



森林講座風景

名称：サマー・サイエンスキャンプ2013

日時：平成25年7月29～31日

参加者：高校生10名

概要：自然や森林に興味を持った高校生10名が、講義や実習を通して森林（樹木）の計測方法等について体験してもらいました。また、若手研究者には、研究者になったきっかけや志望動機について話していただき、高校生に科学についての興味を持っていただきました。



開 講 式



実 習 風 景



発 表 風 景



記 念 撮 影

名称：公開講演会＋オープンラボ「北の林業イノベーションー新技術が切り拓く北海道林業の未来ー」

日時：平成25年10月10日 10:00～12:00 公開講演会

13:30～16:25 オープンラボ

場所：公開講演会 千歳市民文化センター

オープンラボ 胆振東部森林管理署1218林班ほ小班

参加者：受付総数166名

公開講演会 演題（演者）：「シカ対策に求められるもの」（北海道支所 松浦友紀子）

- ・全国的に問題となっているシカによる森林被害を減らすため、シカの捕獲手法に関する研究について発表

「エゾマツの資源回復に向けた新たな試み」（東京大学 後藤晋）

- ・資源量が減少しているエゾマツを、育苗方法の改良や開発によって資源回復させる取り組みについて発表

「北海道における実生コンテナ苗の育苗技術開発にむけて」（北海道育種場 田村明）

- ・コンテナ苗を使った育苗技術の課題等について、エゾマツで行ったコンテナ苗の育成試験結果等を参考に発表

「高能率な植栽技術を目指して」（本所林業工学研究領域 山田健）

- ・コンテナ苗の自動耕耘植付機等による高能率な植栽技術の開発について発表

オープンラボ 概要：会場において、コンテナ苗自動植付機の説明・デモを行い、その後、コンテナ苗植付のための専用工具を使用して植樹を行った。



会場風景



開会挨拶（牧野支所長）



コンテナ苗自動植付機デモ



コンテナ苗植樹

名称：第2回森林講座（通算第63回・札幌大学との合同公開講座）

日時：平成25年12月19日 14:50～15:50

場所：札幌大学 6504教室

参加者：84名

概要：今年の新しい試みとして、札幌大学と合同で公開講座を開催することとなりました。演者は札幌大学から早矢仕教授、当支所からは森林生物研究グループの平川浩文主任研究員が担当しました。早矢仕教授がシマフクロウに関する発表の後、平川主任研究員が「雪に眠るコテングコウモリ」のテーマで、コテングコウモリに関するこれまでの研究・調査結果を分かりやすく解説しました。



早矢仕教授による講演



平川主任研究員による講演

名称：平成25年度森林総合研究所 北海道地域研究成果発表会

日時：平成26年2月17日 13:30～16:00

参加者：104名

場所：札幌市男女共同参画センター 3階ホール（札幌エルプラザ内）

テーマ：「北の森の生きものと私たち」

発表1：「危険生物スズメバチの天敵－女王バチを操る寄生線虫－」

発表者：佐山勝彦

[要旨] スズメバチは代表的な危険生物ですが、彼ら自身にもさまざまな天敵がいます。平成19年度の本発表会でご紹介した新種の寄生線虫もそのひとつです。この線虫はスズメバチの女王バチを不妊化して巣を作らせなくするため、巣の数を減らして刺傷事故の減少に利用できる可能性があります。しかし、スズメバチの生物的防除の可能性を探るうえで、この線虫には不明な点がたくさんありました。その後の研究により、寄生線虫の国内分布や寄主範囲のほか、線虫がスズメバチの行動をうまく利用して新たな感染場所にたどり着くことが明らかになりました。今回はそれらの研究成果についてご報告します。

発表2：「野生生物観測システムの確立へ向けて－これまでの歩み、現状、そして課題－」

発表者：平川浩文

[要旨] 自然は常に変化しています。野生生物も例外ではありません。特に近年は、人間の影響による大きな変化が目立ちます。彼らとうまくつきあっていくためには、その分布や数の変化を的確に知る必要があります。森林総合研究所北海道支所では自動撮影による野生生物の調査手法を開発し、6年前（2008年）の支所研究発表会で「自動撮影による野生生物モニタリングの勧め」と題する講演を行い、観測への参加を呼びかけました。その結果、現在までに北海道森林管理局の6機関と道内に拠点を持つ4大学の参加を得て、道内16地域で野生生物観測を行っています。本講演では、この6年間の歩みと現状、分かってきたこと、今後の課題についてお話します。

発表3：「北の森の希少樹種－保全のための課題と対策－」

発表者：金指あや子

[要旨] 日本列島には、さまざまな希少樹種があります。しかし、希少樹種の多くの自生地は、森林伐採や土地開発など人為的要因により衰退し、絶滅が危惧されています。自生地が分断・縮小すると、遺伝的多様性の減少や、分断化に伴う遺伝子流動の減少や遮断が起こります。小集団化は、花粉制限や近交弱勢による種子生産の低下をもたらします。また、次世代が更新できる局所環境の劣化や競合種の侵入も、希少樹種の生育や更新を妨げます。このような希少樹種の自生地を持続的に保全するためには、集団間の遺伝子流動を保障し、健全な更新を促すための保全管理が必要です。北海道の希少樹種を中心に、その現状を紹介し、保全のための対策について考えます。

発表4：「連携・協力で希少植物を守るために－レブンアツモリソウの事例－」

発表者：八巻一成

[要旨] レブンアツモリソウは、礼文島だけに生息する植物です。そのかわいらしい形と希少性から植物愛好家に人気が高く、花を見るために島には毎年、多くの観光客が訪れます。しかし、この植物はかつて大量に盗掘され、絶滅の危機に瀕してしまいました。現在、わずかに見られる自生株を盗掘から守るために、監視・パトロール活動が続けられています。また、人工培養技術によって人工的に繁殖させる取り組みも進められています。この植物が将来も島で咲き続けるためには、多くの関係者の連携・協力が欠かせません。発表では、関係者の連携・協力という面から、今後の保全活動のあり方について探ります



開会挨拶（牧野支所長）



会場風景



発表1（佐山）



発表2（平川）



発表3（金指）



発表4（八巻）

## V. 平成25年度研究業績

著者(森林総研以外の者は所属を括弧書き)	発表年月	発表表題	発表書誌情報(書誌名、巻号頁)
Momohara, Ikuo, Ota, Yuko, <b>Yamaguchi, Takehiro</b> , <b>Makoto Ishihara</b> , Takahata, Yoshitaka, Kosaka, Hajime	2013.07	Assessment of the decay risk of airborne wood-decay fungi III : decay risks at different sampling sites. (空中浮遊菌による腐朽リスク評価III: サンプルング地点によるリスクの違い)	J. Wood Sci.
阿部真、 <b>倉本恵生</b> 、 <b>飯田滋生</b> 、 <b>佐々木尚三</b> 、 <b>石橋聡</b> 、高橋正義、酒井佳美、鷹尾元、 <b>山口岳広</b> 、正木隆	2013.04	北海道の針広混交林の択伐施業による林床植生の初期反応—種の多様性は損なわれるか—	日本森林学会誌95(2):101-108
<b>山口岳広</b> 、 <b>倉本恵生</b> 、 <b>佐々木尚三</b>	2014.02	林業機械のトドマツ林内走行試験で発生した地表部側根損傷の実態	北方森林研究 62:77-80
<b>山口岳広</b> 、 <b>倉本恵生</b> 、 <b>佐々木尚三</b>	2013.11	トドマツ林内での林業機械走行試験による地表部側根損傷の発生実態	樹木医学会講演要旨集、18:44
<b>石原誠</b> 、 <b>山口岳広</b>	2013.11	バイオマス生産ヤナギ類に発生するさび病被害の実態	樹木医学会講演要旨集、18:36
<b>山口岳広</b> 、 <b>石原誠</b> 、升屋勇人(森林総研東北)、市原優(森林総研関西)、神崎菜摘(森林総研)	2014.03	北海道南西部におけるニレ類衰退木の発生実態、	第125回日本森林学会大会講演要旨集
<b>倉本恵生</b> 、 <b>山口岳広</b> 、 <b>佐々木尚三</b>	2013.07	林内走行機械による根の損傷を減らすために	平成25年版研究成果選集 12-13
<b>山口岳広</b>	2013.05	カラコギカエデからメープルシロップを作る	北方林業、65(5):133-135
<b>山口岳広</b>	2013.05	富良野市内で発見されたストロブマツ発疹さび病	森林保護、330:12-14
<b>山口岳広</b>	2013.09	平成25年北海道森づくり研究成果発表会(森林整備部門)を聴講して	北方林業、65(9):261-264
来田和人(道総研林試)、坂上大翼(東大北海道演習林)、 <b>山口岳広</b> 、木村徳志(東大北海道演習林)、秋本正信(道総研林試)、今博計(道総研林試)、山田利博(東大千葉演習林)	2014.01	針葉樹3種の苗木に自然感染した暗色雪腐病菌に対する薬剤防除試験	北海道の林木育種 52:2
小林幹夫、 <b>北村系子</b>	2013.08	イヌトクガワザサ(イネ科:タケ亜科)の新産地とササ属アマギザサ節とチマキザサ節の分布域の再検討	植物研究雑誌 88(4):251-257
佐々木祥世、並川寛司、 <b>北村系子</b> 、松井哲哉(現森林総合研究所)	2013.10	島嶼におけるブナの北限、北海道奥尻島のブナ林の種組成と林分構造	植生学会ポスター発表
壁谷大介、齋藤哲、飛田博順、右田千春、川崎達郎、 <b>韓慶民</b> 、梶本卓也	2013.10	S-curve を利用した資源分配に基づく樹高・肥大成長のモデルの検討	関東森林学会 65
<b>Q Han</b> , D Kabeya, S Saito, M G. Araki, T Kawasaki, C Migita, Y Chiba	2014.02	Thinning alters crown dynamics and biomass increment within aboveground tissues in young stands of Chamaecyparis obtusa.	Journal of Forest Research 17:156-163
Katahata, S. I.(静岡大学)、 <b>Han, Q.</b> , Naramoto, M, Kakubari, Y(静岡大学)、Mukai, Y(岐阜大学)	2014.02	Seasonal changes in temperature response of photosynthesis and its contribution to annual carbon gain in Daphniphyllum humile, an evergreen understory shrub.	Plant Biology 16(2):345-353
<b>Q Han</b> , D Kabeya, A Iio(静岡大学)、Y Inagaki, Y Kakubari(静岡大学)	2014.03	Nitrogen storagedynamics are affected by masting events in Fagus crenata.	Oecologia 174(3):679-687
<b>Qingmin Han</b> , Daisuke Kabeya, Yoshiyuki Inagaki	2013.08	Do mast seeding rely on stored nitrogen reserves in Fagus crenata trees?	ESA98: 98th Anniversary Meeting 2013 "Sustainable Pathways: Learning from the Past and Shaping the Future" Online Abstracts: PS39-55
<b>韓慶民</b>	2013.09	繁殖による炭水化物の非同化器官への配分変化及び高CO2濃度の影響	日本木材学会組織と材質研究会秋季シンポジウム「樹木の肥大成長と生育環境・樹木生理」第62回北方森林学会大会 62:8
<b>韓慶民</b> 、岩本宏二郎、川崎達郎	2013.11	縞枯山の斜面位置がシラベの樹液流に与える影響	第125回日本森林学会大会講演要旨集
<b>韓慶民</b> 、 <b>原山尚徳</b> 、 <b>上村章</b> 、宇都木玄	2014.03	ヤナギバイオマス生産の効果的な施肥技術の開発	第125回日本森林学会大会講演要旨集

著者(森林総研以外の者は所属を括弧書き)	発表年月	発表表題	発表書誌情報(書誌名、巻号頁)
梶本卓也、福島成樹(千葉県森林研究所)、齊藤哲、壁谷大介、川崎達郎、五十嵐哲也、奥田史郎、右田千春、 <b>韓慶民</b> 、千葉幸弘、清野嘉之	2014.03	スギ人工林の花粉生産と間伐による抑制技術:多雄花木間伐試験4年間の結果からみた可能性	第125回日本森林学会大会講演要旨集
<b>Qingmin Han</b> , Daisuke Kabeya, Atsuhiko Iio (静岡大学)、Yoshiyuki Inagaki、Yoshitaka Kakubari(静岡大学)	2014.03	Nitrogen storage dynamics are affected by masting events in <i>Fagus crenata</i> .	日本生態学会第61回大会要旨集
Kabeya D, Inagaki Y, Noguchi K, <b>Han Q</b>	2014.03	Does reproduction event affect the seasonal pattern of radial growth in <i>Fagus crenata</i> ?	日本生態学会第61回大会要旨集
<b>原山尚徳</b> 、大野泰之(道総研林業試)、来田和人(道総研林業試)、 <b>上村章</b> 、 <b>韓慶民</b> 、宇都木玄	2014.03	グイマツ雑種F1とカラマツ成木における光合成特性の空間パターン	日本生態学会第61回大会要旨集
藤井一至、稲垣善之、小野賢二、早川智恵(農業環境研究所)、 <b>韓慶民</b>	2014.03	ブナ林土壌におけるセルロース分解速度に対する酸性化の影響	日本生態学会第61回大会要旨集
<b>韓慶民</b>	2013.06	樹木はどのようにして種子生産を大きく変動させるのか—種子の炭素源の解明—	北方林業 65:5-8
<b>石橋聡</b> 、 <b>古家直行</b> 、佐久間彬(北大)	2014.02	天然更新施業による循環的木材生産立地(予報)	北方森林研究 62:19-20
高橋正義、 <b>倉本恵生</b> 、 <b>石橋聡</b>	2013.11	風倒再生林における林冠高の時系列変化と森林構造	第62回北方森林学会大会講演要旨集
今博計、明石信廣、南野一博、 <b>倉本恵生</b> 、 <b>飯田滋生</b>	2013.07	北海道中央部の広葉樹林に隣接するトドマツ人工林での種子散布	日本生態学会誌 63:211-218
Rei Shibata, Mitsue Shibata, Hiroshi Tanaka, <b>Shigeo Iida</b> , Takashi Masaki, Fumika Hatta, Hiroko Kurokawa and Tohru Nakashizuka	2014.01	Interspecific variation in the size-dependent resprouting ability of temperate woody species and its adaptive significance.	Journal of Ecology (in press). 102:209-220
<b>飯田滋生</b>	2014.02	ネズミ忌避剤カブサイシンのミズナラ播種造林に対する有効性の検討	北方森林研究 62 p67-68
新山馨、 <b>飯田滋生</b> 、木村勝彦、佐藤保、田中憲蔵、八木橋勉	2013.06	Azizi Ripin, Abd. Rahman Kassim. マレーシア半島、パソ保護林での20年間のリターデータから見た一斉開花現象	第23回日本熱帯生態学会大会講演要旨集
<b>倉本恵生</b> 、 <b>飯田滋生</b> 、 <b>橋本徹</b> 、藤田玲	2014.03	トドマツ壮齢人工林における車両系林業機械走行わだち上と隣接部の林床植生	第125回日本森林学会大会講演要旨集
<b>金指あや子</b> ・吉丸博志	2013.10	日本における希少樹種の現状と保全	地球環境18-2:145-152
<b>Seki, Takeshi</b>	2014.03	Influence of seed-cone production and climatic factors on height growth and branch extension in <i>Abies sachalinensis</i> .	日本生態学会大会講演要旨集 61
<b>関剛</b>	2014.03	トドマツの雌花序生産において年次間変動に影響を及ぼす気象条件	第125回日本森林学会大会講演要旨集
<b>倉本恵生</b> 、高橋正義、 <b>古家直行</b> 、 <b>伊藤江利子</b>	2014.02	択伐施業林におけるウダイカンバの着花パターン	北方森林研究 62
阿部俊夫、 <b>山野井克己</b> 、 <b>倉本恵生</b>	2014.03	平坦な河畔林におけるヤナギ落葉散布の面的推定	第125回日本森林学会大会講演要旨集
<b>倉本恵生</b> 、山口岳広、佐々木尚三	2013.10	林内走行機械の活用による安全で効率的な木材生産	森林総合研究所平成25年度オープンラボ(ポスター)
阿部俊夫、 <b>倉本恵生</b> 、 <b>山野井克己</b>	2014.03	北海道の河畔林における高所作業車および落葉模型を用いたヤナギ落葉散布範囲の解明	日本森林学会誌96(3):132-140
<b>Tsuyama, I.</b> , Nakao, K., Higa, M., Matsui, T., Shichi, K. and <b>Tanaka, N.</b>	2014.02	What controls the distribution of the Japanese endemic hemlock, <i>Tsuga diversifolia</i> ? Footprint of climate in the glacial period on current habitat occupancy.	Journal of Forest Research 19-1:154-165
Yun, J.H., Nakao, K., <b>Tsuyama, I.</b> , Higa, M., Matsui, T., Park, C.H., Lee, B.Y. and <b>Tanaka, N.</b>	2014.02	Does future climate change facilitate expansion of evergreen broad-leaved tree species in human-disturbed landscape of the Korean Peninsula? Implication for monitoring design of the impact assessment.	Journal of Forest Research 19-1:174-183

著者(森林総研以外の者は所属を括弧書き)	発表年月	発表表題	発表書誌情報(書誌名、巻号頁)
Nakao, K., Higa, M., <u>Tsuyama, I.</u> , Matsui, T., Horikawa, M. and <u>Tanaka, N.</u>	2013.12	Spatial conservation planning under climate change: Using species distribution modeling to assess priority for management of <i>Fagus crenata</i> in Japan.	Journal for Nature Conservation (in press) 21(6):406-413
<u>津山幾太郎</u> , 堀川真弘、中尾勝洋、松井哲哉、小南祐志、 <u>田中信行</u>	2013.03	マクロスケールにおけるミヤコザサ節の分布規定要因～ミヤコザサ節の分布は積雪深だけで説明できるのか?～	日本生態学会第60回全国大会. 静岡. <a href="http://www.esj.ne.jp/meeting/abst/60/P2-042.html">http://www.esj.ne.jp/meeting/abst/60/P2-042.html</a> . (2013.03)
Kominami, Tanaka, N., Ataka, M. and <u>Tsuyama, I.</u>	2013.06	Potential CO2 efflux occurred CWD decomposition caused by tree species change under the climate change in Japan.	The 9th International Carbon Dioxide Conference, Beijing, China.
<u>Tanaka, N.</u> , Obata, K., and <u>Tsuyama, I.</u>	2013.06	Estimating changes of two <i>Fagus</i> species populations from the past to the future, based on the inventory of a 404-ha monitoring plot under a marginal climatic condition for <i>F. crenata</i> .	The 56th Symposium of the International Association for Vegetation Science in Tartu, Estonia.
T. Matsui, K. Nakao, <u>I. Tsuyama</u> , M. Higa, Y. Kominami, E. Nakazono, Y. Hijioka, K. Takahashi, H. Harasawa and <u>N. Tanaka</u> .	2013.08	Climate change impact assessment of habitat shifts for important forest trees and plants, and development of integrated model AIM/Adaptation[Policy] for conservation managers.	INTECOL 2013. London.
Nakao, K., Higa, M., <u>Tsuyama, I.</u> , Matsui, T. and <u>Tanaka, N.</u>	2013.08	Spatial conservation planning under climate change: using species distribution modeling to assess priority for adaptive management of <i>Fagus crenata</i> in Japan.	The 98th Annual Meeting of Ecological Society of America, Minneapolis, USA
Yun, JH., Nakao, K., <u>Tsuyama, I.</u> , Matsui, T., Park CH., Lee, BY. and <u>Tanaka, N.</u>	2013.08	Assessing the impacts of climate change on potential habitats of two <i>Abies</i> species ( <i>Abies koreana</i> , <i>Abies nephrolepis</i> ) in Korea.	The 68th annual meeting of the Korean association of biological sciences
堀田昌伸、 <u>津山幾太郎</u> 、中尾勝洋、尾関雅章、比嘉基紀、小南祐志、松井哲哉、 <u>田中信行</u>	2013.08	北アルプス中南部におけるライチョウ生息域への温暖化影響の予測と評価	日本鳥学会2013年度大会. 名古屋
堀田昌伸、 <u>津山幾太郎</u> 、中尾勝洋、尾関雅章、比嘉基紀、小南祐志、松井哲哉、 <u>田中信行</u>	2013.11	温暖化によるライチョウ生息域への影響—その予測と評価	第14回ライチョウ会議山梨大会. 南アルプス市
堀田昌伸、 <u>津山幾太郎</u> 、中尾勝洋、尾関雅章、比嘉基紀、小南祐志、松井哲哉、 <u>田中信行</u>	2013.11	北アルプス中南部に生息するライチョウへの温暖化影響、その予測と評価	第16回自然系調査研究機関連絡会議. 能登
<u>田中信行</u> 、中尾勝洋、 <u>津山幾太郎</u> 、松井哲哉	2013.11	「自然生態系の適応策」(田中充・白井信雄編, 気候変動に適應する社会)	技報堂出版 p114-119
<u>津山幾太郎</u> 、堀田昌伸、中尾勝洋、尾関雅章、比嘉基紀、小南祐志、松井哲哉、安田正次、 <u>田中信行</u>	2013.09	温暖化によるライチョウ生息域への影響予測	RECCA-S8-創生D 研究交流会. 東京
<u>Tsuyama, I.</u> Hotta, M., Nakao, K., Ozeki, M., Higa, M., Kominami, Y., Matsui, T., Yasuda, M. and <u>Tanaka, N.</u>	2013.09	How climate change will affect on the distribution of cold-adapted bird, ptarmigan?	Workshop on qualitative assessment of climate change impact on natural vegetation in East Asia including Korea and Japan. Korea.
長倉淳子、古澤仁美、 <u>伊藤江利子</u> 、 <u>相澤州平</u> 、 <u>橋本徹</u>	2014.03	連年施肥がウグイスの養分状態におよぼす影響	関東森林研究 65(1):99-102
<u>橋本徹</u> 、 <u>相澤州平</u> 、 <u>伊藤江利子</u> 、 <u>佐々木尚三</u>	2014.02	ハーベスタ・フォワードシステムにおける積雪期の間伐作業による土壌圧密の実態	北方森林研究 62:87-88
阿部俊夫、 <u>佐々木尚三</u> 、 <u>相澤州平</u> 、 <u>橋本徹</u> 、 <u>山野井克己</u>	2014.02	作業道を通じた間伐林分から溪流への浮流土砂流入～生田原国有林の事例～	北方森林研究 62:91-94
<u>相澤州平</u> 、 <u>橋本徹</u> 、 <u>伊藤江利子</u> 、 <u>佐々木尚三</u> 、真田勝	2014.03	北海道のトマツ人工林における林業機械走行が表層土壌物理性に与える影響	第125回日本森林学会大会講演要旨集
古澤仁美、長倉淳子、 <u>伊藤江利子</u> 、 <u>相澤州平</u> 、 <u>橋本徹</u>	2013.09	肥培モデル実験林において33年連続施肥が土壌微生物バイオマスに及ぼす影響	第44回日本緑化工学会大会
<u>橋本徹</u> 、 <u>相澤州平</u> 、 <u>伊藤江利子</u> 、 <u>佐々木尚三</u>	2014.03	北海道のトマツ人工林における林業機械走行と散布枝条が土壌に与える影響	第125回日本森林学会大会講演要旨集
平井敬三、山田毅、西園朋広、天野智将、 <u>相澤州平</u> 、阪田匡司、池田重人、三浦寛、久保山裕史、小野賢二	2014.03	土壌および立地条件からみた森林バイオマスの強度収穫の課題	第125回日本森林学会大会講演要旨集

著者(森林総研以外の者は所属を括弧書き)	発表年月	発表表題	発表書誌情報(書誌名、巻号頁)
<u>上村章</u> 、 <u>原山尚徳</u> 、宇都木玄	2014.02	ヤナギ挿しつけ1年目の台切りの有無が萌芽2年目のバイオマス量に与える影響	北方森林研究第62号
<u>原山尚徳</u> 、 <u>上村章</u> 、斎藤丈寛、高橋祐二、宇都木玄	2014.02	カラマツ新植地における生分解性除草シートを用いた下草防除効果	北方森林研究第62号
<u>上村章</u> 、 <u>原山尚徳</u> 、 <u>韓慶民</u> 、宇都木玄	2014.03	バイオマス作物としてヤナギ年間1株当たり乾物収量0.5kgを得るために	第125回日本森林学会大会講演要旨集
<u>原山尚徳</u> 、 <u>上村章</u> 、宇都木玄	2014.03	カラマツ大苗と生分解性除草シートによる下刈りコスト削減効果	第125回日本森林学会大会講演要旨集
<u>韓慶民</u> 、 <u>原山尚徳</u> 、 <u>上村章</u> 、宇都木玄	2014.03	ヤナギバイオマス生産の効果的な施肥技術の開発	第125回日本森林学会大会講演要旨集
宇都木玄、 <u>上村章</u> 、 <u>原山尚徳</u> 、大野泰之	2014.03	列状伐採内に植栽した、カラマツおよびF1の光合成生産量の推定—BigLeafモデルを用いた解析—	第125回日本森林学会大会講演要旨集
<u>原山尚徳</u> 、大野泰之、来田和人(道総研林業試)、 <u>上村章</u> 、 <u>韓慶民</u> 、宇都木玄(森林総研)	2014.03	グイマツ雑種F1とカラマツ成木における光合成特性の空間パターン	日本生態学会第61回大会要旨集
鎌倉真依、小杉緑子(京大・農)、高梨聡、 <u>上村章</u> 、宇都木玄(森林総研)、Abdul Rahman Kassim(FRIM)	2014.03	Imaging-PAMを用いた半島マレーシア熱帯雨林における不均一な気孔閉鎖の時空間変動	日本生態学会第61回大会要旨集
白石健司、坂田剛(北里大)、中野隆志(山梨県環境科学研究所)、 <u>上村章</u> 、宇都木玄(森林総合研究所)	2014.03	葉の被食被害に即応して誘導される光合成抑制現象—そのメカニズムと種間比較—	日本生態学会第61回大会要旨集
宇都木玄、飛田博順、 <u>上村章</u> 、 <u>原山尚徳</u> 、北岡哲	2013.07	将来の高い二酸化炭素濃度によって、森林全体の光合成生産量が増加する	森林総合研究所平成25年度版研究成果選集 p32-33
阪田匡司、 <u>橋本徹</u> 、小野賢二、森下智陽、石塚成宏、平井敬三	2013.10	積雪期と非積雪期における森林土壌からの温室効果ガスフラックスの違い	関東森林学会講演要旨集
<u>伊藤江利子</u> 、 <u>高橋正義</u> 、松井哲哉、 <u>古家直行</u>	2014.02	GIS環境情報を用いた下川町内におけるヤナギ栽培適地の抽出	北方森林研究 62:39-42
壁谷大介、長谷川元洋、岡本透、齋藤智之、 <u>伊藤江利子</u>	2014.03	カラマツの葉の窒素濃度に対する過去の土地利用履歴の影響	第125回日本森林学会大会講演要旨集
<u>Ito, E.</u> , et al.	2013.08	Leaf-age-related stomatal conductance of the intact leaves of a tall dipterocarp in a Cambodian dry evergreen forest.	XI INTECOL International Congress of Ecology
Iida, S., Shimizu, T., Tamai, K. <u>Ito, E.</u> et al.	2013.06	Intra- and interspecies differences in transpiration in a lowland deciduous forest in Cambodia.	The 9th International Workshop on Sap Flow
Iida, S., Shimizu, T., <u>Ito, E.</u> , et al.	2013.12	Relationship between Tree Phenology and Transpiration Activity in a Deciduous Forest, Central Cambodia.	Proceedings of International Workshop on Forest Research in Cambodia
Tith, B., <u>Ito, E.</u> , Ohnuki, Y., et al.	2013.12	Forest property comparison between the Kratie and Kampong Thom meteorological observation tower plots.	Proceedings of International Workshop on Forest Research in Cambodia
Ohnuki, Y., Keth, S., <u>Ito, E.</u> , et al.	2013.12	Spatial fluctuation of soil water content and ground temperature at deciduous and evergreen forests in Cambodia.	Proceedings of International Workshop on Forest Research in Cambodia
Iida, S., Shimizu, T., Tamai, K. <u>Ito, E.</u> et al.	2013.12	Transpiration and phenology of deciduous trees in Kratie province, Cambodia.	Phnom Penh Work shop
宇都木玄、 <u>原山尚徳</u> 、 <u>上村章</u>	2014.02	北海道に適した低コスト造林の考え方	北方森林研究 62
<u>Yasuko Mizoguchi</u> ( <u>溝口康子</u> )、Yasuda Yukio(安田幸生)、Yoshikazu Ohtani(大谷義一)、Tsutomu Watanabe(渡辺力)(北大)、Yuji Kominami(小南裕志)、 <u>Katsumi Yamanoi</u> ( <u>山野井克己</u> )	2014.02	A practical model to estimate photosynthetically active radiation using general meteorological elements in a temperate humid area, and comparison among models(温帯湿潤地域における一般気象データを用いた光合成有効放射推定実用モデルとモデル間比較)	Theoretical and Applied Climatology (online first) 115:583-589
<u>山野井克己</u> 、中村一樹(北大)	2013.09	雲粒なし降雪結晶を原因とする面発生乾雪表層雪崩—十勝岳連峰三段山で発生した事例—	雪氷研究大会(2013・北見)講演要旨集
<u>溝口康子</u> 、 <u>山野井克己</u> 、宇都木玄	2013.11	札幌森林気象試験地における台風攪乱後の林床光環境の変化	北方森林学会大会研究発表資料 62
<u>溝口康子</u> 、 <u>山野井克己</u> 、宇都木玄、飛田博順	2014.03	羊ヶ丘実験林における台風攪乱前後の光環境の変化と林床植生(仮題)	日本農業気象学会2014年全国大会講演要旨集

著者(森林総研以外の者は所属を括弧書き)	発表年月	発表表題	発表書誌情報(書誌名、巻号頁)
溝口康子、山野井克己、宇都木玄	2014.03	森林生態系炭素収支の直接測定にもとづく将来予測へのシステムアプローチ	第125回日本森林学会大会講演要旨集
山野井克己		寒害 日本雪氷学会編「新版雪氷辞典」	古今書院、29-30
山野井克己、中村一樹(北大)、大西人史(雪崩事故防止研究会)、山本行秀(クウェリ)、菊地基(旭岳ビジターセンター)	2014.01	雪氷学会北海道支部雪氷災害調査チーム2012年12月に三段山で発生した雪崩の調査報告	北海道の雪氷 32:6-9
1) Masayuki Kondo(近藤雅征)(福島大)、Kazuhito Ichii(市井和仁)(福島大)、Masahito Ueyama(植山雅仁)(大阪府大)、 <b>Yasuko Mizoguchi(溝口康子)</b> et al.	2013.09	The role of carbon flux and biometric observations in constraining a terrestrial ecosystem model: a case study in disturbed forests in East Asia (陸域生態系モデルを律則する炭素フラックスとバイオメトリック観測の役割: 東アジアにおける攪乱森林の事例研究)	Ecological Research, 28(5):893-905
Masahito Ueyama(植山雅仁)(大阪府大)、Kazuhito Ichii(市井和仁)(福島大)、Nobuko Saigusa(三枝信子)(国環研)、Takashi Hirano(平野高司)(北大)、M. Alberto(北大)、J. Asanuma(浅沼順)(筑波大)、S. J. Han(CAS)、Y. - J. Hsia(Dong Hwa 大)、M. Kang(Seoul 大)、J. Kim(Seoul 大)、Kenzo Kitamura(北村兼三)、Yuji Kominami(小南裕志)、Hiroaki Kondo(近藤裕昭)(産総研)、Ayumi Kotani(小谷亜由美)(名大)、Yoshiko Kosugi(小杉緑子)(京大)、S. - G. Li(CAS)、Y. N. Li(CAS)、Takahisa Maeda(前田高尚)(産総研)、Yojiro Matsuura(松浦洋次郎)、Akira Miyata(宮田明)(農環研)、 <b>Yasuko Mizoguchi(溝口康子)</b> 、Takeshi Ohta(太田岳志)(名大)、Takanori Shimizu(清水貴範)、Kentaro Takagi(高木健太郎)(北大)、Ichiro Tamagawa(玉川一郎)、Y. Tang(国環研)、H. Wang(CAS)、Yukio Yasuda(安田幸生)、G. - R. Yu(CAS)、Y. - P. Zhang(CAS)、F. -H. Zhao(CAS)	2013.08	An integrated FLUX database for Asia(アジアの統合フラックスデータベース)	AsiaFlux Workshop 2013 Proceedings
近藤雅征(福島大)、市井和仁(福島大)、植山雅仁(大阪府大)、 <b>溝口康子</b> 他	2013.05	アロケーション比を基にした陸域生態系モデルの多変量最適化	日本地球惑星科学連合2013年大会予稿集 ACG37-P04

著者(森林総研以外の者は所属を括弧書き)	発表年月	発表表題	発表書誌情報(書誌名、巻号頁)
Kazuhito Ichii(市井和仁)(福島大)、Masahito Ueyama(植山雅仁)(大阪府大)、Masayuki Kondo(近藤雅征)(福島大)、Akihiko Ito(伊藤昭彦)(国環研)、Takahiro Sasai(佐々井崇博)(名大)、H. Sato <sup>4</sup> 、Hirano(平野高司)(北大)、J. Kim(Seoul 大)、Nobuko Saigusa(三枝信子)(国環研)、M. Alberto(北大)、J. Asanuma(浅沼順)(筑波大)、M.S. Bret-Harte (Alaska 大)、C. Edgar (Alaska 大)、S.E. Euskirchen (Alaska 大)、S.J. Han (CAS)、Y.J. Hsia (Dong Hwa 大)、M. Kang (Seoul 大)、Kenzo Kitamura (北村兼三)、Yuji Kominami (小南裕志)、Hiroaki Kondo (近藤裕昭)(産総研)、Ayuki Kotani(小谷亜由美)(名大)、Yoshiko Kosugi(小杉緑子)(京大)、S.G. Li <sup>16</sup> (CAS)、Y.N. Li(CAS)、Takahisa Maeda(前田高尚)(産総研)、Yojiro Matsuura(松浦洋次郎)、Akira Miyata(宮田明)(農環研)、 <b>Yasuko Mizoguchi(溝口康子)</b> 、Takeshi Ohta(太田岳志)(名大)、Taku M. Saitoh(斎藤琢)(岐阜大)、Takanori Shimizu(清水貴範)、Kentaro Takagi(高木健太郎)、Y. Tang (国環研)、H. Wang(CAS)、Yukio Yasuda(安田幸生)、G.R. Yu (CAS)、Y. P. Zhang (CAS)、F.H. Zhao (CAS)、N. Zimov (NSS)、S.A. Zimov(NSS)	2013.08	Application of an integrated flux database for Asia: empirical upscaling and model evaluation (アジアの統合フラックスデータベースの適用:経験的アップスケーリングとモデル評価)	AsiaFlux Workshop 2013 Proceedings
<b>延廣竜彦</b> 、坪山良夫、久保田多余子、玉井幸治	2013.09	茨城県北部のヒノキ林における間伐に伴う林分構造と樹冠通過雨量の変化	関東森林研究 64-2:41-44
<b>佐山勝彦</b> 、 <b>尾崎研一</b> 、原秀穂、小野寺賢介	2013.04	011年に北海道で発生した森林昆虫	北方林業 65:117-121
<b>尾崎研一</b>	2013.10	森林保護:食葉性昆虫における食べ合わせの効果	北方林業 65:313-316
<b>尾崎研一</b> 、 <b>佐山勝彦</b>	2014.03	立ち枯れ木の昆虫にとっての重要性	第61回日本生態学会大会講演要旨集
及川希、松井理生(東大)、 <b>平川浩文</b>	2013.09	秋に顕著な夜間活動ー北海道中央部のハイマツ帯に生息するエゾナキウサギの日周活動	哺乳類科学 53: 79-87
<b>平川浩文</b> 、長坂有	2013.09	2013年春に探して発見された、残雪上のコテングコウモリ <i>Murina ussuriensis</i> 10例の経過観察	日本哺乳類学会2013年度大会講演要旨集
<b>平川浩文</b>	2013.09	ウサギ類の糞食 ミニシンボ:うんちは別腹?	日本哺乳類学会2013年度大会講演要旨集
<b>平川浩文</b>	2013.12	クロテンによるシマリスの捕食例	森林保護 332:25-26
<b>平川浩文</b>	2013.01	雪の中で冬眠するコウモリ?	動物と動物園平成25年冬号 p31
<b>平川浩文</b>	2013.01	雪の中で眠るコテングコウモリ	自然保護 531:32-34
<b>Sayama, Katsuhiko</b> 、Kosaka, Hajime、 <b>Makino, Shun'ichi</b>	2013.07	Release of juvenile nematodes at hibernation sites by overwintered queens of the hornet <i>Vespa simillima</i>	Insectes Sociaux 60(3):383-388

著者(森林総研以外の者は所属を括弧書き)	発表年月	発表表題	発表書誌情報(書誌名、巻号頁)
Kasaka, Hajime, <b>Sayama, Katsuhiko, Makino, Shun'ichi</b>	2013.07	Host range and geographical distribution of <i>Sphaerularia vespae</i> , a parasite of hornets	Proceedings of the 10th International Nematological Symposium, 10:116
久留島宏明(首都大)、清水晃(首都大)、西本裕(神戸女学院大)、 <b>佐山勝彦</b> 、松本和馬、加藤学(山田養蜂場)、渡邊謙太(沖縄高専)	2013.09	ナミヒメクモバチ(クモバチ科)日本集団の配偶行動解析	日本昆虫学会大会講演要旨 73:45
清水晃(首都大)、西本裕(神戸女学院大)、 <b>牧野俊二</b> 、岡部貴美子、 <b>佐山勝彦</b> 、松本和馬、遠藤知二(神戸女学院大)	2013.09	竹筒トラップ法を用いたクモバチ(ベッコウバチ)科の托卵寄生種の探索	日本昆虫学会大会講演要旨 73:63
<b>佐山勝彦</b> 、尾崎研一、原秀穂(道総研林試)、小野寺賢介(道総研林試)	2013.04	2011年に北海道で発生した森林昆虫	北方林業 65(4):21-25
<b>佐山勝彦</b>	2013.10	スズメバチから身を守るには	農業日誌(平成26年)日誌のしおり 252
<b>佐山勝彦</b> 、伊東拓也(道立衛生研)	2013.10	北海道におけるキボシアシナガバチの営巣記録	つねきぼち 23:35-36
<b>石原誠</b> 、 <b>松浦友紀子</b>	2013.11	下川町ヤナギ植栽地における獣害の発生実態	北方森林研究No.62(投稿中)
<b>石原誠</b> 、秋庭満輝、佐橋憲生	2014.03	サクラ類こぶ病の発生に及ぼす光質と摘葉処理の影響	第125回日本森林学会大会・発表(ポスター)
石原誠、山口岳広	2013.11	下川町ヤナギ植栽地におけるさび病の被害実態	第125回日本森林学会大会・発表(ポスター)
<b>松浦友紀子</b> 、高橋裕史、荒木奈津子(占冠村)、伊吾田宏正(酪農学園大学)、池田敬(東京農工大学)、東谷宗光(酪農学園大学)、村井拓成(酪農学園大学)、吉田剛司(酪農学園大学)	2013.11	森林用囲いわなと銃器を組み合わせた捕獲手法の有効性	森林防疫 62-6:29-34
山本さつき(東京農工大学)、鈴木馨(東京の高大)、 <b>松浦友紀子</b> 、伊吾田宏正(酪農学園大学)、日野貴文(酪農学園大学)、高橋裕史、池田敬(東京農工大学)、吉田剛司(酪農学園大学)、鈴木正嗣(岐阜大学)、梶光一(東京農工大学)	2013.12	ニホンジカ( <i>Cervus nippon</i> )における捕獲に伴うストレスの生理学的評価	哺乳類科学 52(2)
<b>松浦友紀子</b> 、高橋裕史、伊吾田宏正(酪農学園大学)、池田敬(東京農工大学)、東谷宗光(酪農学園大学)、梶光一(東京農工大学)、日野貴文(酪農学園大学)、吉田剛司(酪農学園大学)	2013.09	シカ個体数調整のための捕獲手法の評価	第29回日本霊長類学会・日本哺乳類学会2013年度合同大会
東谷宗光(酪農学園大学)、 <b>松浦友紀子</b> 、伊吾田宏正(酪農学園大学)、高橋裕史、池田敬(東京農工大学)、吉田剛司(酪農学園大学)、梶光一(東京農工大学)	2013.09	餌資源制限下において、子ジカは母親の影響をどれだけ受けるのか?	第29回日本霊長類学会・日本哺乳類学会2013年度合同大会
伊吾田宏正(酪農学園大学)、 <b>松浦友紀子</b> 、伊吾田順平(西興部村猟区管理協会)	2013.09	次期西興部村猟区エゾシカ管理計画の策定	第29回日本霊長類学会・日本哺乳類学会2013年度合同大会
高橋裕史、 <b>松浦友紀子</b> 、村井拓成(酪農学園大学)、池田敬(東京農工大学)、東谷宗光(酪農学園大学)、日野貴文(酪農学園大学)、吉田剛司(酪農学園大学)	2013.09	支笏湖畔の気温泉旅館でシカを捕獲する	第29回日本霊長類学会・日本哺乳類学会2013年度合同大会
池田敬(東京農工大学)、 <b>松浦友紀子</b> 、高橋裕史、吉田剛司(酪農学園大学)、村井拓成(酪農学園大学)、梶光一(東京農工大学)	2013.09	カメラトラップを用いた密度推定手法のニホンジカ個体群への実用性	第29回日本霊長類学会・日本哺乳類学会2013年度合同大会

著者(森林総研以外の者は所属を括弧書き)	発表年月	発表表題	発表書誌情報(書誌名、巻号頁)
古賀彩音(酪農学園大学)、本間由香里(酪農学園大学)、伊吾田宏正(酪農学園大学)、吉田剛司(酪農学園大学)、赤坂猛(酪農学園大学)、金子正美(酪農学園大学)、 <b>松浦友紀子</b>	2013.09	札幌市近郊に生息するエゾシカの季節移動と土地利用	第29回日本霊長類学会・日本哺乳類学会2013年度合同大会
池田敬(東京農工大学)、 <b>松浦友紀子</b> 、高橋裕史、吉田剛司(酪農学園大学)、梶光一(東京農工大学)	2013.11	北海道支笏湖畔におけるミクروسケールでのエゾシカの生息地利用	野生生物と社会学会2013.11
<b>Yukiko Matsuura</b> , Hiromasa Igota(酪農学園大学), Junpei Igota(西興部村猟区管理協会)	2013.08	Population control of sika deer in a special hunting area in Hokkaido, Japan.	International mammalogical congress 11
Munemitsu Azumaya(酪農学園大学), <b>Yukiko Matsuura</b> , Hiromasa gota(酪農学園大学), Tsuyoshi Yoshida(酪農学園大学)	2013.08	The effects of malnutrition on reproductive characteristics in sika deer inhabiting Shikotsu-Toya National Park, Japan.	International mammalogical congress 11
<b>松浦友紀子</b>	2014.01	シカの管理と有効活用	ワイルドライフフォーラム 18(2):22-23
<b>松浦友紀子</b> 、井田宏之(エゾシカ協会)、近藤誠司(北海道大学)	2013.10	エゾシカの食資源化における課題とエゾシカ協会の取り組み	水利科学 2013
皆上伸、柴崎茂光、愛甲哲也、柘植隆宏、庄子康、 <b>八巻一成</b> 、山本清龍	2013.11	十和田八幡平国立公園奥入瀬溪流におけるリスクマネジメントの現状と課題ー利用者と管理者の視点からー	林業経済研究 59, 41567
<b>八巻一成</b>	2014.03	市民団体による国有林ガバナンスの評価:野幌国有林を事例として	第125日本森林学会大会講演要旨集 p66
柴崎茂光、池田遼、奥山洋一郎、 <b>八巻一成</b> 、枚田邦宏、西谷大	2014.03	屋久島の国有林内に存在した林業集落に関するフィールド研究	第125回日本森林学会大会講演要旨集 p163
<b>八巻一成</b>	2013.11	絶滅危惧種保全への山村社会の関わり:礼文島と男鹿半島を事例に	2013 年林業経済学会秋季大会発表要旨 (2013)
<b>Yamaki K.</b>	2013.06	Governance performance and social networks in endangered species conservation: a case of Rebun Lady's-Slipper	The 14th Global Conference of the International Association for the Study of the Commons Abstracts, 104p
<b>八巻一成</b>	2013.03	ヨーロッパと日本の自然公園制度の比較	国際シンポジウム「自然公園としての富士山-4」報告書, 34-48
<b>八巻一成</b>	2013.05	協働による森林管理の現状と課題	平成24年度北の国・森林づくり技術交流発表会報告集 北海道森林管理局, 151-154
<b>八巻一成</b>	2013.10	自然公園と地域社会, 森にひとがくるといふこと	京都大学フィールド科学教育研究センター, 24-28
<b>八巻一成</b>	2013.10	書評「イギリスのカントリーサイド」	森林科学 69:43
<b>八巻一成</b>	2014.01	北海道における森林の開発・保護と森林鉄道関連遺構	歴博 182:7-11
<b>嶋瀬拓也</b>	2013.08	製材業の産業組織と中小規模層の存立形態としての「大工出し」	日本中小企業学会論集 2:136-148
<b>嶋瀬拓也</b>	2014.02	北海道におけるカンパ類製材・合板適材の出現状況ー国有林立木公売情報の分析結果からー	北方森林研究 62:21-24
<b>嶋瀬拓也</b>	2013.11	木材需給の変動要因と需給調整機関の役割に関する理論的検討ー研究フレームワーク構築の試みとしてー	林業経済学会2013 年秋季大会発表要旨集 D29
<b>嶋瀬拓也</b>	2014.03	国内木材工業における外材から国産材への転換可能性ー外材工場への聞き取り調査からー	第125回日本森林学会大会講演要旨集
<b>嶋瀬拓也</b>	2013.09	2000年代における木材国内交流の動向と特徴	木材情報 268:5-10
<b>Naoyuki Furuya</b> (古家直行), Yoshio Awaya(栗屋善雄)(岐阜大), <b>Eriko Ito</b> (伊藤江利子), Hideki Saito(齋藤英樹), Yasumasa Hirata(平田泰雅), Yoshiyuki Kiyono(清野嘉之), Izumi Nagatani(永谷泉)(東北大)	2014.01	Spatial and Temporal Analysis of Probabilities for Acquiring Cloud-free Optical Sensor Images Using MODIS Cloud Mask Products 2000-2008 in Southeast Asia(東南アジアにおける2000-2008年のMODIS雲マスクを利用した雲なし光学センサ画像取得確率の時空間解析)	Journal of Forest Planning 19(2)

著者(森林総研以外の者は所属を括弧書き)	発表年月	発表表題	発表書誌情報(書誌名、巻号、頁)
古家直行、野田巖(国際農研セ)、Woraphun Himmapan(タイ王室森林局)	2014.03	樹冠テンプレートマッチングを用いた東北タイ・チーク人工林分材積推定	日本森林学会 26:3
古家直行	2014.03	樹冠位置	森林リモートセンシング 4
古家直行	2013.07	第124回日本森林学会大会見聞録(経営分野)	北方林業 65:7

## VI. 資料

### 1. 会議

会議名	開催日	主催	開催場所
研究所会議	年3回 (5・11・3月)	本所 総合調整室	森林総合研究所
北海道支所運営連絡会議	週1回	北海道支所	北海道支所
北海道支所運営会議	月2回	北海道支所	北海道支所
庶務課長等会議	25.11.28～11.29	本所総務部	森林総合研究所
北海道支所業務報告会	25.12.2	北海道支所	北海道支所
北海道支所研究評議会	26.2.18	北海道支所	札幌市男女共同参画センター
研究評議会	25.11.14	本所企画部	森林総合研究所
研究推進評価会議	26.3.5	本所企画部	森林総合研究所

#### (林業研究開発推進ブロック会議)

林業研究開発推進ブロック会議(北海道ブロック)	25.9.25	林野庁 北海道支所	かでの2・7(札幌市)
-------------------------	---------	--------------	-------------

#### (林業試験研究機関連絡協議会)

北海道林業林産試験研究機関連絡協議会情報連絡部会	25.6.14	北海道支所	北海道支所
北海道林業林産試験研究機関連絡協議会総会	25.8.20	北海道支所	道総研林業試験場

#### (推進会議及びプロジェクト関連会議)

環境省地球環境保全等試験研究費「自生地復元」研究推進評価会議	26.1.20	北海道支所	北海道大学
交付金プロジェクト「緩中傾斜地」研究推進評価会議	26.2.13	北海道支所	札幌市男女共同参画センター
農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業「伐採造林システム」研究推進評価会議	26.2.24	北海道支所	森林総合研究所

#### (林業試験研究機関連絡協議会)

北海道国有林森林・林業技術協議会 現地検討会	25.11.27	北海道森林 管理局	空知森林管理署由 仁森林事務所14・か 林班
------------------------	----------	--------------	------------------------------

## 2. 諸行事

年 月 日	行 事
25.6.29	一般公開 開催(北海道支所・北海道育種場・森林農地整備センター札幌水源林整備事務所)
25.7.29～7.31	サマーサイエンスキャンプ2013「空から森林の変動を測る」
25.8.1～8.2	わくわく夏休み子ども見学デー～体験しよう！食と農林水産の世界～(主催:北海道農政事務所)へ出展
25.8.7	2013サイエンスパーク(主催:北海道)へ出展
24.12.7～12.8	2012アグリビジネス創出フェア in Hokkaido へ出展
25.10.10	公開講演会+オープンラボ 北の林業イノベーション-新技術が切り拓く北海道林業の未来- 開催
25.10.18	消防訓練(①消防訓練 ②水消火器による消火訓練)
25.11.29～11.30	2013アグリビジネス創出フェア in Hokkaidoへ出展
25.12.19	札幌大学・森林総合研究所 合同公開講座 開催(北海道支所・札幌大学)
26.1.10	下川町で先進林業機械の現地検討会 開催
26.2.17	北海道地域研究成果発表会 開催(北海道支所・北海道育種場・札幌水源林整備事務所)

## 3. その他の諸会議

会 議 名	開催日	主 催	出 席 者
情報公開・個人情報保護訴訟に関する実務連絡会	25. 11. 1	北海道水産林務部	山口 彰
第39回北海道地区研修担当官会議	26. 3. 6	人事院北海道事務局	横濱大輔

4. 職員の研修・講習

研修・講習名	期間	主催	受講者
小型車両系建設機械運転技能講習	25. 6. 5～6. 6	キャタピラー教習所 北海道研修センター	倉本 恵生
小型車両系建設機械運転技能講習	25. 6. 5～6. 6	キャタピラー教習所 北海道研修センター	横濱 大輔
小型車両系建設機械運転技能講習	25. 6. 5～6. 6	キャタピラー教習所 北海道研修センター	佐藤 孝一
小型車両系建設機械運転技能講習	25. 6. 5～6. 6	キャタピラー教習所 北海道研修センター	神田 光紀
小型車両系建設機械運転技能講習	25. 6. 5～6. 6	キャタピラー教習所 北海道研修センター	土谷 直輝
平成25年度勤務時間・休暇制度研修会	25. 6. 27	人事院北海道事務局	近藤 洋美
平成25年度育児休業・福祉制度研修会	25. 6. 28	人事院北海道事務局	横濱 大輔
業態別研修会（第7区分）	25. 7. 23	豊平区防火管理協議会	山口 彰
高所作業車（10m以上）運転技能講習	25. 8. 26-27	キャタピラー教習所 北海道研修センター	佐藤 孝一
高所作業車（10m以上）運転技能講習	25. 8. 26-27	キャタピラー教習所 北海道研修センター	神田 光紀
高所作業車（10m以上）運転技能講習	25. 9. 10-11	キャタピラー教習所 北海道研修センター	横濱 大輔
高所作業車（10m以上）運転技能講習	25. 9. 10-11	キャタピラー教習所 北海道研修センター	尾崎 研一
防火研修会	25. 9. 19	札幌豊平防火管理者協議会	山口 彰
平成25年度「心の健康づくり予防対策のための講習会」	25. 10. 4	人事院北海道事務局	横濱 大輔
平成25年度「心の健康づくり予防対策のための講習会」	25. 10. 4	人事院北海道事務局	神田 光紀
平成25年度「心の健康づくり予防対策のための講習会」	25. 10. 4	人事院北海道事務局	近藤 洋美
平成25年度北海道地区セクシャル・ハラスメント防止研修指導者養成コースの研修	25. 10. 24	人事院北海道事務局	神田 光紀
安全研修会	25. 10. 25	豊平区危険物安全協議会	北村 系子
安全研修会	25. 10. 25	豊平区危険物安全協議会	横濱 大輔
安全研修会	25. 10. 25	豊平区危険物安全協議会	神田 光紀
安全研修会	25. 10. 25	豊平区危険物安全協議会	高橋あけみ
安全研修会	25. 10. 25	豊平区危険物安全協議会	土谷 直輝
安全研修会	25. 10. 25	豊平区危険物安全協議会	近藤 洋美
平成25年度評価・監査北海道セミナー	25. 10. 31	北海道管区行政評価局	横濱 大輔
甲種防火管理新規講習	25. 11. 12-13	札幌豊平区防火管理者協議会	近藤 洋美
農林水産関係若手研究者研修	25. 11. 27-29	農林水産省農林水産技術会議事務局	津山幾太郎
平成25年度政策評価に関する統一研修	25. 12. 13	北海道管区行政評価局	渡邊 謙一
外国語研修（英語）	25. 7. 4-9. 28	北海道支所	宮本 基杖
外国語研修（英語）	25. 7. 10-11. 6	北海道支所	溝口 康子
外国語研修（英語）	25. 7. 18-12. 18	北海道支所	神田 光紀

研 修 ・ 講 習 名	期 間	主 催	受 講 者
外国語研修（英語）	25. 7. 2-12. 24	北海道支所	八巻 一成
外国語研修（英語）	25. 7. 12-12. 26	北海道支所	橋本 徹
外国語研修（フィンランド語）	25. 7. 20-12. 14	北海道支所	倉本 恵生
第40回北海道地区研修担当官会議	26. 3. 6	人事院北海道事務局	横濱 大輔

5. 受託出張（82件）

用務	日程	依頼者	用務先	氏名
平成24年度補正予算林野庁補助事業「先進的林業機械緊急実証・普及事業」第1回検討委員会 出席	H25. 4. 8	株式会社自然産業研究所	京都大学東京オフィス 会議室	佐々木尚三
「北進線改修事業に係る専門家会議」第2回 出席	H25. 4. 17	日本工営株式会社東京支店	東京都港区竹芝及び小笠原村（TV会議による出席）	田中 信行
「森林環境教育エキスパートスクールー森林・林業再生と里山との共生ー」講師	H25. 5. 20	岩手大学農学部附属寒冷フィールドサイエンス教育研究センター	岩手大学農学部御明神演習林	田中 信行
世界自然遺産の再資源化に向けたアクションリサーチに関する打合せ等	H25. 5. 22～24	大学共同利用機関法人人間文化研究機構 国立歴史民俗博物館	国立歴史民俗博物館	八巻 一成
野生動物と人との共生推進事業シンポジウムに係る講師	H25. 5. 18～19	国立大学法人岐阜大学 応用生物科学部長	岐阜大学講堂	松浦友紀子
平成24年度補正予算林野庁補助事業「先進的林業機械緊急実証・普及事業」選定委員会 出席	H25. 5. 23	株式会社自然産業研究所	アミノ酸会館ビル	佐々木尚三
2013土別ブナ・つくも山観察会 講師	H25. 5. 31～6.	土別市郷土研究会	土別地区森林組合	田中 信行
共同研究「保護地域制度が周辺地域の生業変化や資源化に及ぼす影響」打ち合わせ	H25. 6. 16～17	大学共同利用機関法人人間文化研究機構 国立歴史民俗博物館	国立歴史民俗博物館他	八巻 一成
創立10周年記念事業記念講演 講師	H25. 8. 31～9.	特定非営利活動法人 青森県樹木医学会	アップルパレス青森	牧野 俊一
「平成25年度ナラ枯れ被害防止技術開発事業」第1回検討委員会 出席	H25. 7. 1	一般社団法人日本森林技術協会	日林協会館	牧野 俊一
スズメバチに関する講演 講師	H25. 7. 5	協同組合 名寄地方建設センター	上川北部地域人材開発センター	佐山 勝彦
平成24年度補正予算林野庁補助事業「先進的林業機械緊急実証・普及事業」関係者合同会議 出席	H25. 7. 3～4	株式会社自然産業研究所	TKP東京駅前カンファレンスセンター	佐々木尚三
北海道から始める日本林業の再生～国有林の技術に立脚した森林・林業再生への貢献～取組発表会 講評	H25. 6. 23	北海道森林管理局	札幌市教育文化会館	牧野 俊一
北海道から始める日本林業の再生～国有林の技術に立脚した森林・林業再生への貢献～取組発表会 発表	H25. 6. 23	北海道森林管理局	札幌市教育文化会館	佐々木尚三
平成25年度知床世界自然遺産地域科学委員会エゾシカ・陸上生態系ワーキンググループ第1回会議 出席	H25. 6. 24	北海道地方環境事務所釧路自然環境事務所	釧路地方合同庁舎	牧野 俊一
北海道森林管理局「平成25年度実証・実験林設定調査等業務委託事業」に係る現地指導	H25. 7. 22～23	株式会社さっぽろ自然調査館	鹿ノ子ダム上流国有林（置戸町）	石橋 聡
小笠原諸島世界自然遺産地域科学委員会 第1回委員会 出席	H25. 7. 13	株式会社プレック研究所	東京都島しょ振興公社会議室	田中 信行

用 務	日 程	依 頼 者	用 務 先	氏 名
平成25年度科学研究費補助金「世界自然遺産の再資源化に向けたアクションリサーチ」に関するフィールド調査	H25.7.8～12	大学共同利用機関法人人間文化研究機構 国立歴史民俗博物館	屋久島森林生態系保全センター他	八巻 一成
平成25年度科学研究費補助金「世界自然遺産の再資源化に向けたアクションリサーチ」に関するフィールド調査	H25.7.24～26	大学共同利用機関法人人間文化研究機構 国立歴史民俗博物館	赤沢自然休養林	八巻 一成
「北進線改修事業に係る専門家会議」第3回 出席	H25.8.5	日本工営株式会社 東京支店	東京都庁第一本庁舎	田中 信行
道路改修事業（小曲地区）に係る専門家会議 出席	H25.8.5	いであ株式会社 国土環境研究所	東京都庁第一本庁舎	田中 信行
平成24年度補正予算林野庁補助事業「先進的林業機械緊急実証・普及事業」第2回検討委員会 出席	H25.8.19	株式会社自然産業研究所	ベルサール八重洲	佐々木尚三
東北森林管理局委託事業「白神山地世界遺産地域等における垂直分布の植生モニタリング調査」に係る現地調査の指導	H25.8.6～8	東北森林管理局	白神岳、二ツ森	田中 信行
技術開発課題現地検討会 出席	H25.8.22～23	北海道森林管理局長	上川中部国有林	佐々木尚三
先進的林業機械緊急実証・普及事業に係る第1回運営委員会 出席	H25.8.26	下川町森林組合	下川町林業総合センター	佐々木尚三
平成25年度科学研究費補助金「世界自然遺産の再資源化に向けたアクションリサーチ」に関するフィールド調査	H25.8.24～28	大学共同利用機関法人人間文化研究機構 国立歴史民俗博物館	屋久島国有林内	八巻 一成
土壌調査及び土壌改良に係る講師	H25.9.13～14	一般社団法人日本樹木医会北海道支部長	森林総合研究所北海道支所	相澤 州平
土壌調査及び土壌改良に係る講師	H25.9.13～14	一般社団法人日本樹木医会北海道支部長	森林総合研究所北海道支所	橋本 徹
共同研究「保護地域制度が周辺地域の生業変化や資源化に及ぼす影響」に係る調査・打ち合わせのため	H25.9.15～17	大学共同利用機関法人人間文化研究機構 国立歴史民俗博物館	広島県福山市鞆町	八巻 一成
平成25年度だて市民カレッジ第4講座 講師	H25.9.18	伊達市教育委員会	だて歴史の杜カルチャーセンター	松浦友紀子
平成25年度第1回屋久島世界遺産地域科学委員会 出席	H25.9.28	九州地方環境事務所長	屋久島環境文化財団 屋久島環境文化センター	牧野 俊一
平成25年度知床世界自然遺産地域科学委員会エゾシカ・陸上生態系ワーキンググループ第1回会議 出席	H25.9.29	北海道地方環境事務所釧路自然環境事務所	釧路地方合同庁舎	牧野 俊一
平成25年度（集団研修）「地域住民の参加による多様な森林保全」コースに係る講師	H25.10.2	一般社団法人海外林業コンサルタント協会	森林総合研究所北海道支所	田中 信行
平成26年度（集団研修）「地域住民の参加による多様な森林保全」コースに係る講師	H25.10.3	一般社団法人海外林業コンサルタント協会	JICA北海道	韓 慶民

用 務	日 程	依 頼 者	用 務 先	氏 名
平成27年度（集団研修）「地域住民の参加による多様な森林保全」コースに係る講師	H25. 10. 3	一般社団法人海外林業コンサルタント協会	JICA北海道	尾崎 研一
平成25年度道北地域コンテナ苗現地検討会 講師	H25. 10. 4	北海道森林管理局 森林技術・支援センター所長	士別市民文化センター及び上川北部森林管理署管内	佐々木尚三
第7回白神山地世界遺産地域科学員会出席	H25. 10. 7	東北森林管理局長	東北森林管理局	田中 信行
林業機械操作技術協議会 審査員	H25. 10. 17	一般社団法人 北海道林業機械化協会 会長	空知総合振興局管内	佐々木尚三
平成25年度国有林自然散策会時の植生等説明	H25. 10. 12	積丹町長 松井秀紀	積丹町大字婦美町 国有林	佐々木尚三
平成25年度国有林自然散策会時の植生等説明	H25. 10. 12	積丹町長 松井秀紀	積丹町大字婦美町 国有林	田中 信行
「野幌自然環境モニタリング検討会」（第17回）出席	H25. 10. 24	北海道森林管理局 長	野幌国有林（41林班外）及び大麻公民館・えぼあホール	平川 浩文
芦生研究林公開講座2013 講演講師	H25. 10. 24～25	京都大学フィールド科学教育研究センター長 吉岡崇仁	京都大学フィールド科学教育研究センター芦生研究林・美山町自然文化村河鹿荘	八巻 一成
「平成25年度ナラ枯れ被害防止技術開発事業」現地検討会 出席	H25. 10. 29～30	一般社団法人 日本森林技術協会	島根県飯石郡飯石郡飯南町、出雲市	牧野 俊一
共同研究「保護地域制度が周辺地域の生業変化や資源化に及ぼす影響」研究会 出席	H25. 11. 2～3	大学共同利用機関法人人間文化研究機構 国立歴史民俗博物館	国立歴史民俗博物館	八巻 一成
「保護地域管理における協働とカンナビンス」 講師	H25. 11. 6	一般財団法人自然環境研究センター	JICA北海道国際センター	八巻 一成
平成25年度環境研究総合推進賞（シマフクロウ・タンチョウを指標とした生物多様性保全ー北海道とロシア極東との比較）アドバイザリーボード会合出席	H25. 12. 6	国立大学法人北海道大学大学院農学研究院院長	北海道大学大学院農学研究院 W109多目的室	尾崎 研一
平成25年度「林業における蜂等被害対策講習会」 講師	H25. 11. 26	林業・木材製造業労働災害防止協会 北海道支部	KKRホテル札幌	佐山 勝彦
北海道のブナの遺伝子について 講師	H25. 12. 18	NPO法人北海道森林ボランティア協会 理事長	札幌市ボランティア研修センター	北村 系子
溪畔周辺の森林施業について（溪畔モデルの設定案）の現地意見交換会 出席	H25. 11. 7	北海道森林管理局 長	十勝森林管理署 17林班	佐々木尚三
「野生動物保全実習」に係る講師	H25. 11. 8～10	学校法人酪農学園 酪農学園大学 農食環境学群 環境共生学類長 山舗直子	紋別郡西興部村内	松浦友紀子
生態研セミナー 出席	H25. 12. 20	国立大学学法人京都大学生態学研究センター長	京都大学生態学研究センター 第2講義室	韓 慶民

用 務	日 程	依 頼 者	用 務 先	氏 名
オオトラカミキリによる被害発生状況の調査 同行	H25. 11. 7～8	北海道森林管理局 長	檜山森林管理署 2 1 7 5い林小班	尾崎 研一
平成24年度補正予算林野庁補助事業「先進的林業機械緊急実証・普及事業」第2回関係者合同会議及び第3回検討委員会 出席	H25. 12. 3～4	株式会社自然産業 研究所	TKP東京駅前カン ファレンスセン ター	佐々木尚三
北海道滝川高等学校SSH課題研究発表会 講師	H25. 12. 3	北海道滝川高等学 校	北海道滝川高等学 校	平川 浩文
平成25年度第3回北海道森林審議会 林地保全部会 出席	H25. 12. 5	北海道森林審議会 林地保全部会	北海道庁	牧野 俊一
平成25年度北海道大学包括連携事業に 関する研究会 出席	H25. 12. 10～11	国立大学法人北海 道大学大学院農学 研究院 教授 柿 澤 宏昭	下川町公民館およ び三津橋農産工場	佐々木尚三
平成25年度北海道大学包括連携事業に 関する研究会 出席	H25. 12. 10～11	国立大学法人北海 道大学大学院農学 研究院 教授 柿 澤 宏昭	下川町公民館およ び三津橋農産工場	原山 尚徳
エゾシカ捕獲手法比較検討会（第1 回） 講師	H25. 12. 17	北海道釧路総合振 興局長	釧路市生涯学習セ ンター	松浦友紀子
「野生動物保全技術実習」に係る講師	H26. 1. 11～13	学校法人酪農学園 酪農学園大学 農 食環境学群 環境 共生学類長 山舖 直子	紋別郡西興部村内	松浦友紀子
北海道森林審議会 出席	H25. 12. 19	北海道水産林務部	北海道庁赤れんが	牧野 俊一
先進的林業機械緊急実証・普及事業に 係る現地検討会及び運営委員会 出席	H26. 2. 4～5	下川町森林組合 代表理事 山下邦 廣	下川町	佐々木尚三
平成25年度「森林・林業人材育成加 速化事業」フォレストマネージャー研 修 講師	H26. 2. 6	一般社団法人 北 海道造林協会北海 道森林整備担い手 支援センター長 旭 孝喜	NTT北海道セミナー センタ	佐々木尚三
平成24年度補正予算林野庁補助事業 「先進的林業機械緊急実証・普及事 業」有限会社橋元林業 現地検討会 出席	H26. 2. 12	株式会社自然産業 研究所	鹿児島大学農学部 高隈附属演習林	佐々木尚三
平成24年度補正予算林野庁補助事業 「先進的林業機械緊急実証・普及事 業」第3回関係者合同会議 出席	H26. 2. 27	株式会社自然産業 研究所	新宿NSビル	佐々木尚三
平成24年度補正予算林野庁補助事業 「先進的林業機械緊急実証・普及事 業」林業機械化推進シンポジウム 出 席	H26. 2. 28	株式会社自然産業 研究所	国立オリンピック 記念青少年総合セ ンター	佐々木尚三
平成25年度保護林管理強化対策事業 検討委員会 出席	H26. 2. 19	北海道森林管理局 計画課長	北海道森林管理局	飯田 滋生
平成25年度第2回北海道森林管理局 技術開発委員会 出席	H26. 3. 6	北海道森林管理局 長	北海道森林管理局	佐々木尚三

用 務	日 程	依 頼 者	用 務 先	氏 名
「野幌自然環境モニタリング検討会」 (第18回) 出席	H26. 2. 21	北海道森林管理局 長	石狩森林管理署	平川 浩文
平成26年度科学研究費委員会審査第 二部会の小委員会 出席	H26. 2. 28	独立行政法人日本 学術振興会 理事長 安西 祐 一郎	日本学術振興会	尾崎 研一
平成25年度「世界自然遺産地域の森 林生態系における気候変動の影響への 適応策検討事業」第2回検討会 出席	H26. 2. 25	一般社団法人 日本森林技術協会	日林協会館	田中 信行
平成25年度第2回屋久島世界遺産地 域科学委員会 出席	H26. 3. 1	九州地方環境事務 所長	サンプラザ天文館 ホール	牧野 俊一
世界自然遺産の再資源化に向けたアク ションリサーチに関する研究成果につ いての打ち合わせ 出席	H26. 3. 3~4	大学共同利用機関 法人人間文化研究 機構 国立歴史民 俗博物館	国立歴史民俗博物 館	八巻 一成
第8回白神山地世界遺産地域科学委員 会 出席	H26. 3. 8	東北森林管理局長	東北森林管理局	田中 信行
平成25年度沖縄らしいみどりを守ろう 事業保全対策検討委託業務第2回委員 会 出席	H26. 3. 8	沖縄県知事	沖縄県市町村自治 会館	牧野 俊一
「平成25年度ナラ枯れ被害防止技術 開発事業」第2回検討委員会 出席	H26. 3. 11	一般社団法人 日本森林技術協会	日林協会館	牧野 俊一
エゾシカ捕獲手法比較検討会 (第2 回) 講師	H26. 3. 14	北海道釧路総合振 興局長	釧路市生涯学習セ ンター	松浦友紀子
平成24年度補正予算林野庁補助事業 「先進的林業機械緊急実証・普及事 業」第4回検討委員会 出席	H26. 3. 26	株式会社自然産業 研究所	LMJ東京研修セン ター	佐々木尚三
平成24年度補正予算林野庁補助事業 「先進的林業機械緊急実証・普及事 業」林業機械化推進シンポジウムin札 幌 基調講演	H26. 3. 10	株式会社自然産業 研究所	会議・研究施設ACU /アキュ	佐々木尚三
地域管理経営計画等に関する懇談会 出席	H26. 3. 17	北海道森林管理局 長	北農健保会館	牧野 俊一
屋久島国有林内における廃村調査	H26. 3. 20~24	大学共同利用機関 法人人間文化研究 機構 国立歴史民 俗博物館	鹿児島県熊毛郡屋 久島町内国有林及 び屋久島生態系保 全センター	八巻 一成
「狩猟者資格認定制度にむけたワーク ショップ」 出席	H26. 3. 26	オホーツク山の幸 活用推進協議会 会長 西興部村長 高畑 秀美	西興部村公民館	松浦友紀子

## 6. 外国出張(14件)

用務	日程		経費負担先	行先	氏名	
「高精度リモートセンシングによるアジア地域熱帯林計測技術の高度化」における現地調査	H25.5.22	～	5.29	農林水産省受託事業費	カンボジア	古家 直行
講演会出席及び研究交流	H25.6.4	～	6.8	受託出張	中国	韓 慶民
「東北タイにおける郷土産有用樹人工林の林業経営安定化」のための現地調査および打ち合わせ	H25.6.20	～	7.2	受託出張	タイ	古家 直行
国際植生学会シンポジウムにおいて、「地球温暖化が森林及び林業分野に与える影響評価」の研究発表、現地検討会に参加し調査・視察	H25.6.24	～	7.8	農林水産省受託事業費	エストニア	田中 信行
「ブナ林堅果豊凶メカニズムの解明:花芽形成期における資源の需給バランスの役割」の研究発表をESA98アメリカ生態学会において研究発表	H25.8.3	～	8.12	運営費交付金	アメリカ	韓 慶民
「支笏洞爺国立公園をモデルとした生態系保全のためのニホンジカ捕獲の技術開発」の研究発表を国際哺乳類学会において研究発表	H25.8.10	～	8.16	環境省受託事業費	イギリス	松浦友紀子
「アジア地域熱帯林における森林変動の定量評価とシミュレーションモデルの開発」の研究発表を国際生態学会において研究発表	H25.8.16	～	8.23	運営費交付金	イギリス	伊藤江利子
狩猟者育成及び野獣肉の衛生管理の制度に関する現地調査	H25.8.17	～	8.24	受託出張	イギリス	松浦友紀子
「REDD推進体制整備に関する研究」における現地調査およびC/Pとの打ち合わせ	H25.8.24	～	9.6	国際林業協力事業	カンボジア	伊藤江利子
「地球温暖化が日本を含む東アジアの自然植生に及ぼす影響の定量的評価」推進のための、韓国NIBRとの研究計画の打ち合わせ及び、雪嶽山での現地植生調査	H25.9.8	～	9.14	環境省受託事業費	韓国	田中 信行
「REDD推進体制整備に関する研究」の社会経済研究の打合せおよびデータ収集	H25.9.9	～	9.14	国際林業協力事業	マレーシア	宮本 基杖
国際シンポジウムへの出席(招待講演)	H25.11.4	～	11.9	受託出張	韓国	田中 信行
「立地環境の異なるマングローブ林の炭素蓄積過程の解明と衛星技術によるその高精度把握」のための衛星LiDAR検証用データ取得のための現地調査	H25.12.18	～	12.25	科学研究費補助金	タイ	倉本 恵生
「アジア地域熱帯林における森林変動の定量評価とシミュレーションモデルの開発」遂行のための野外調査	H26.1.27	～	2.11	農林水産省受託事業費	カンボジア	伊藤江利子

## 7. 研修生の受入

### ① 受託研修生(1名)

氏名	所属	研修期間	研修内容	受入担当
津田 祥吾	北海道教育大学教育学部札幌校	25.5.15～26.2.15	ブナの葉緑体DNAの分析手法および集団遺伝学的解析手法	チーム長(北方林遺伝資源保全担当)北村 系子

### ② 海外研修生(12名)

研修名:JICA集団研修「地域住民の参加による多様な森林保全」コース	
日程:25.10.2～10.3	
(国名)	(人数)
ブルキナファソ	2
カンボジア	1
エチオピア	1
ケニア	1
ラオス	1
マラウイ	1
ミャンマー	1
ネパール	1
パプアニューギニア	1
タンザニア	1
東ティモール	1

8. 来訪者

①支所視察・見学・利用

来訪日	来訪者	人数	目的	担当者
25. 5. 9 ～26. 3. 31	北海道大学大学院環境科学院	2	ブナにおける土壌中の無機窒素濃度測定試験	チーム長(北方林遺伝資源保全担当)
25. 5. 13	北海道大学大学院農学院	11	施設見学	産学官連携推進調整監他
25. 6. 3	札幌科学技術専門学校	16	環境調査実習	連絡調整室
25. 6. 8～9	北海道バイダー連絡会	50	バンダーの情報交換及び勉強	連絡調整室
25. 6. 13	酪農学園大学共生学類	82	学外実習	支所長他
25. 6. 20	韓国森林庁	20	視察	産学官連携推進調整監
25. 6. 26	西岡南小学校	25	自然散策	連絡調整室
25. 6. 28	壮瞥町議会	10	視察・研修(シカ害)	森林生物研究グループ
25. 7. 1～5	鳴門教育大学大学院学校教育研究科	1	昆虫類の試料採集	森林生物研究グループ
25. 7. 6	日本樹木医学会北海道支部	15	実技指導他	連絡調整室
25. 7. 25	北海道森林管理局	21	施設見学・実習(コンテナ苗)	産学官連携推進調整監他
25. 9. 13	西岡南小学校	216	自然散策	連絡調整室
25. 9. 24	豊平公園緑のセンター	5	緑の相談員研修	連絡調整室
25. 9. 27	広島県立西条農業高校	8	施設見学	産学官連携推進調整監
25. 10. 17	日高町議会	12	施設見学	連絡調整室

②実験林利用者

利用期間	利用者	人数	目的
25. 4. 1～ 26. 3. 31	北海道大学北方生物圏フィールド科学センター	1	冷温帯落葉広葉樹林における炭素吸収ポテンシャルのリモートセンシングを目的に樹冠の長期観測
25. 4. 1～11. 15	川路則友他	2	森林性鳥類の生態調査および鳥類標識調査
25. 4. 20～7. 31	酪農学園大学	1	ヤブサメさえずりの記録調査
25. 5. 2～8. 10	立教大学大学院理学研究科	1	ヤブサメの生態調査
25. 6. 10	札幌科学技術専門学校	16	環境調査実習
25. 6. 30	日本野鳥の会滝川支部	15	森林の状況、野鳥のバンディングの状況などの勉強会
25. 8. 1～ 26. 3. 31	北海道大学低温科学研究所	1	森林大気エアロゾルの化学組成に関する研究
25. 9. 12～15	札幌キノコの会第六支部	8	きのこの採集

③標本館来館者数

	一般	学生	国機関	都道	林業	外国	計
				府県	団体		
4月	45	0	0	0	0	0	45
5月	1,422	11	0	0	0	0	1,433
6月	285	7	0	0	0	20	312
7月	101	17	0	0	0	1	119
8月	152	38	0	0	0	0	190
9月	96	8	0	0	0	0	104
10月	203	5	0	12	0	12	232
11月	88	5	5	0	0	0	98
12月	114	0	0	0	0	0	114
1月	144	0	0	0	0	0	144
2月	58	0	0	0	0	0	58
3月	46	0	0	0	0	0	46
合計	2,754	91	5	12	0	33	2,895

9. 広報活動

①新聞等

内 容 等	掲載日	社名
	25. 5. 16	日本経済新聞
保残伐の実証実験 北海道、北海道大学、道総研、森林総研北海道支所が連携	25. 6. 8	読売新聞
	25. 6. 8	日本経済新聞
	25. 6. 17	毎日新聞
	25. 6. 4	日本経済新聞
北方林人工林施業に適した低コスト生産システム開発の共同研究協定締結 下川町と森林総研北海道支所	25. 6. 12	名寄新聞、北都新聞、読売新聞
	25. 6. 13	北海道新聞
	25. 6. 27	民有林新聞
ふしぎ科学館「スズメバチのひみつ」スズメバチ生態の解説	25. 8. 3	読売新聞
中国でスズメバチ被害拡大 オオスズメバチ生態の解説	25. 10. 4	CNN (web版)
苗木植え付け自動化 道森林管理局 千歳で試作機実演 紹介	25. 10. 10	北海道新聞
北海道国有林森林・林業技術協議会「トドマツ人工林の腐朽」現地検討会報告	25. 12. 12	民有林新聞
	25. 12. 13	北海道林材新聞
雪崩を起こす「降雪結晶」の解説	26. 1. 4	北海道新聞
ヤナギ栽培し資源活用（白糠町） 解説	26. 1. 10	北海道新聞
危険生物スズメバチの天敵 女王バチに寄生、新種の線虫（北海道地域研究成果発表会報）	26. 2. 27	民有林新聞
鳥獣害と戦う 女性狩猟者活躍へ（女性狩猟者ネットワークの活動）	26. 3. 22	日本農業新聞

②ラジオ放送

内 容 等	放送日	局名
ラジオあさいちばん 女性狩猟者ネットワークの活動について	26. 1. 12	NHKラジオ第一

③テレビ放送

内 容 等	放送日	局名
1 x 8 いこうよ！ 北海道の森林林業について	25. 5. 26	札幌テレビ放送
U型テレビ スズメバチ刺傷害の解説	25. 9. 24	北海道文化放送
宮崎美子のすずらん本屋堂 スズメバチの生態・刺傷害の解説	25. 11. 22	BS11

④定期刊行物

内 容 等	ISSN	発行日	発行部数
平成25年版北海道支所年報	2187-8730	25. 3	オンライン
北の森だよりVol. 1 1 1. 針葉樹人工林への猛禽類の営巣促進ツールとしての人工巣の開発 2. 北海道の木材を住宅に使ってもらうには？	1882-9627	25. 12. 27	900
北の森だよりVol. 1 2 平成25年度森林総合研究所北海道地域研究成果発表会発表集 1. 危険生物スズメバチの天敵-女王バチを操る寄生線虫- 2. 野生生物観測システムの確立へ向けて 3. 北の森の希少樹種-保全のための課題と対策- 4. 連携・協力で希少植物を守るために-レブンアツモリソウの事例- 研究報告 1. 中小製材工場の役割と生き残り戦略 2. 林業機械による側根損傷は避けられるか？-トドマツ林内での実験から-	1882-9627	26. 3. 31	900

10. 図書刊行物の収数

区 分	和 書			洋 書			合 計
	購 入	寄 贈	計	購 入	寄 贈	計	
単行書	35冊	36冊	71冊	2冊	0冊	2冊	73冊
逐次刊行物	54誌	247誌	301誌	28誌	11誌	39誌	340誌

11. 固定試験地・収穫試験地

①固定試験地

整理番号	試験地名	研究項目	森林管理署	林小班	樹種	面積 ha	設定 年度	終了予 定年度	調査 年度	距離 km	担当研究グループ	区 分
札幌 4	苫小牧植生調査試験地	林冠破壊による植生の変化 (風害後の遷移)	胆振東部	1301,い-3 1463,い	トドマツ アカエゾマツ エゾマツ ダケカンバ	1.67 18.74	32	H30	不定期	97.6	森林育成研究グループ	A
札幌 7	札幌カラマツ産地試験地	カラマツ産地試験	石狩	41,な・ね	カラマツ	5.84	34	H31	不定期	28.9	森林育成研究グループ	A
札幌16	利根別トドマツ人工林収穫試験地	長伐期林分情報の整備方式の開発	空知	41,は	トドマツ	0.9	36	H33	10年毎	49.6	北方林管理研究グループ	A
札幌17	万字カラマツ人工林収穫試験地	長伐期林分情報の整備方式の開発	空知	18,ろ	カラマツ	1.1	41	H46	5年毎	75.1	北方林管理研究グループ	A
札幌32	ヤチダモ人工林の構造と生長試験地 (3)(4)	長伐期林分情報の整備方式の開発の予測	石狩	41,ほ-20 33	ヤチダモ	1.14 1.13	30 25	H27	5年毎	29.9	北方林管理研究グループ	A
札幌51	札幌トドマツ産地試験地	トドマツ産地試験	石狩	58,ぬ 64,た	トドマツ	3.94	42	H29	不定期	39.4	森林育成研究グループ	A
札幌54	空沼天然林施設試験地(1)(2)	トドマツ・エゾマツ天然林の生長予測	石狩	1128,は い-1 と 1129,れ ほ へ	トドマツ エゾマツ 広葉樹	2.16 0.99	43 44	H30	5年毎	24.6	北方林管理研究グループ	A
札幌61	苫小牧広葉樹試験地	落葉広葉樹林の更新	胆振東部	1205,い	広葉樹類	43.37	50	H31	不定期	80	森林育成研究グループ	A'
旭川 1	枝幸カラマツ産地試験地	カラマツ産地試験	宗谷	6,い	カラマツ	5	34	H32	不定期	403.9	森林育成研究グループ	A
旭川 2	大雪植生調査試験地	林冠破壊による植生の変化 (風害後の遷移)	上川中部	260,ろ 276,い 290,いゝろ 320,いゝろ	未立木	1.5	31	H30	不定期	248.4	森林育成研究グループ	A
旭川 3	林冠破壊による土壌の変化試験地	森林伐採に伴う設置環境変動と堆積腐植分経年の関係	上川中部	260,ろ 276,い 290,いゝろ 320,いゝろ	未立木	1.5	31	H30	不定期	248.4	植物土壌系研究グループ	B
旭川 5	雄信内トドマツ人工林収穫試験地	長伐期林分情報の整備方式の開発	留萌北部	50,い	トドマツ	0.56	38	H27	10年毎	329.4	北方林管理研究グループ	A
旭川 8	上川トドマツ産地試験地	トドマツ産地試験	上川中部	141,い	トドマツ	4.47	42	H29	不定期	201.4	森林育成研究グループ	A
旭川 9	浜頓別トドマツ産地試験地	トドマツ産地試験	宗谷	1010,ろ・ほ	トドマツ	9.02	42	H29	不定期	400.8	森林育成研究グループ	A
旭川11	大雪原生林植物群落保護林調査試験地	原生林の更新動態	上川中部	254 260	トドマツ アカエゾマツ エゾマツ	2	H11	定めず	不定期	248.4	森林育成研究グループ	A
旭川12	士別天然林成長量固定試験地	トドマツ・エゾマツ天然林の成長予測	上川北部	397,い	トドマツ エゾマツ	3.26	H13	定めず	5年毎		北方林管理研究グループ	A
旭川13	幾寅天然林成長量固定試験地	トドマツ・エゾマツ天然林の成長予測	上川南部	141,ろ	トドマツ エゾマツ	4	H13	定めず	5年毎		北方林管理研究グループ	A
北見 4	エゾマツ・トドマツ天然林固定標準地	林分成長量の推定及び予測手法に関する研究	網走中部	1041,い	エゾマツ トドマツ 広葉樹	1.96	33	H30	5年毎		北方林管理研究グループ	A
北見 6	丸瀬布カラマツ人工林収穫試験地	長伐期林分情報の整備方式の開発	網走西部	1108,う	カラマツ	1.09	42	H46	5年毎	266.5	北方林管理研究グループ	A
北見 7	佐呂間トドマツ産地試験地	トドマツ産地試験	網走中部	90,む	トドマツ	4.53	42	H29	不定期	335.4	森林育成研究グループ	A
北見 8	津別天然林成長量固定試験地	トドマツ・エゾマツ天然林の成長予測	網走南部	2205,ろ	トドマツ エゾマツ	2.08	H15	定めず	5年毎		北方林管理研究グループ	A
帯広 2	清水カラマツ産地試験地	カラマツ産地試験	十勝西部	15,い	カラマツ	4.67	35	H32	不定期	240.9	森林育成研究グループ	A
帯広 4	ベケレトドマツ人工林収穫試験地	長伐期林分情報の整備方式の開発	根釧西部	77,ろ	トドマツ	1	40	H38	10年毎	482.3	北方林管理研究グループ	A
帯広 9	根室トドマツ産地試験地	トドマツ産地試験	根釧東部	1024,い	トドマツ	4.32	44	H29	不定期	500	森林育成研究グループ	A
帯広10	弟子屈天然林成長試験地	トドマツ・エゾマツ天然林の成長予測	根釧西部	47,い	トドマツ エゾマツ	8	H15	H34	5年毎		北方林管理研究グループ	A
函館 8	函館トドマツ産地試験地	トドマツ産地試験	檜山	2.130,へ と ち	トドマツ	4.43	42	H29	不定期	319.3	森林育成研究グループ	A

②収穫試験地

整理番号	試験地名	研究項目	森林管理署	林小班	樹種	面積 ha	設定 年度	終了予 定年度	調査 年度	担当研究グループ	区 分
札幌16	利根別トドマツ人工林収穫試験地	長伐期林分情報の整備方式の開発	空知	41,は	トドマツ	0.9	S36	H33	10年毎	北方林管理研究グループ	A
札幌17	万字カラマツ人工林収穫試験地	長伐期林分情報の整備方式の開発	空知	18,ろ	カラマツ	1.1	S41	H46	5年毎	北方林管理研究グループ	A
旭川 5	雄信内トドマツ人工林収穫試験地	長伐期林分情報の整備方式の開発	留萌北部	50,い	トドマツ	0.56	S38	H27	10年毎	北方林管理研究グループ	A
北見 6	丸瀬布カラマツ人工林収穫試験地	長伐期林分情報の整備方式の開発	網走西部	1108,う	カラマツ	1.09	S42	H46	5年毎	北方林管理研究グループ	A
帯広 4	ベケレトドマツ人工林収穫試験地	長伐期林分情報の整備方式の開発	根釧西部	77,ろ	トドマツ	1	S40	H38	10年毎	北方林管理研究グループ	A

12. 羊ヶ丘実験林の試験林一覧

No.	試験林名	試験項目	林班	樹種	年度	面積 ha	担当
1	針葉樹病害試験林	病害発生情報の収集・解析と突発性病害発生生態の解明	1-に	トドマツ他	48	0.55	森林生物研究グループ
2	野鳥誘致林	キツツキ類の営巣穴の消失過程の解析及び動態把握	1-へ	ナナカマド他	48	0.62	森林生物研究グループ
3	特用樹試験林	成長調査	1-と	キササゲ他	50	0.61	業務係
4	針・広葉樹造成試験林	成長調査	1-ち	イチイ他	H元	0.50	業務係
5	群落構成試験林	北方系天然林における成長及び更新動態の長期モニタリング	2-は～よ	ハイマツ他	48	10.43	森林育成研究グループ
6	針葉樹人工林試験林	成長調査	3-に、 5-へ～ち、 5-ぬ、 6-と	グイマツ他	48	4.95	業務係
7	針葉樹腐朽病害試験林	立木の腐朽・変色を起こす菌類の生態および宿主との相互作用の解明	3-ほ	カラマツ	H3	0.97	森林生物研究グループ
8	広葉樹人工林試験林	成長調査	3-へ、 3-ち～る、 4-ろ、 5-り、 7-に	ミズナラ他	48	6.31	業務係
9	広葉樹人工林試験林	北方林構成樹種の養分の配分・利用特性	3-と	ウダイカンバ	49	0.94	植物土壌系研究グループ
10	土壌環境長期モニタリング試験林	北方林の立地特性と物質循環モデル	4-へ	トマツ他	48	1.62	植物土壌系研究グループ
11	昆虫多様性試験林	昆虫発生情報の収集と解析	4-と	トマツ他	48	3.21	森林生物研究グループ
12	虫害解析試験林	昆虫発生情報の収集と解析	4-ち	トマツ他	48	2.00	森林生物研究グループ
13	生態遷移試験林	森林の更新を制御する因子としてのササの動態及びその被覆の影響の評価	5-ろ、 6-ろ、 6-ほ	ヤマナラシ他	53	21.19	森林育成研究グループ
14	森林気象試験林	北方系落葉広葉樹林の二酸化炭素動態のモニタリング	5-ろ、 6-い～へ、 8-い～ろ	ヤマナラシ他	H6	57.13	寒地環境保全研究グループ
15	植栽密度試験林	密度管理技術に基づく長伐期林分の成長・収穫予測の高度化	5-に	アカエゾマツ他	48	5.77	北方林管理研究グループ
16	鳥獣生態調査試験林	キツツキ類の営巣穴の消失過程の解析及び動態把握	6-い、へ	シラカンバ他	H5	14.96	森林生物研究グループ
17	広葉樹用材林施業試験林	天然林における択伐施業計画法の改善	6-は～に	シラカンバ他	53	6.31	北方林管理研究グループ
18	針広混交林造成試験林	樹種の環境適応性の生理的特性の解明と評価	7-い～ろ	シラカンバ他	50	14.95	植物土壌系研究グループ
19	ウダイカンバ植栽試験林	成長調査	8-は	ウダイカンバ	62	1.93	業務係

### 1.3. 羊ヶ丘の気象

○試験研究の資料として、昭和48年から北海道支所羊ヶ丘観測露場において、気象観測を実施している。

平成24年度の気象概要は以下のとおりである。

1. 平均気温は、7.8℃で平年並みであった。最高気温は7月8日に記録した32℃であり、真夏日に相当する30℃を超える日は3日あった。また、最低気温は2月8日に記録した-16.8℃であり、真冬日に相当する最高気温が氷点下の日数は58日であった。
2. 年間降水量は1,100.5mmで平年並であった。
3. 25年3月までに積雪した雪は、4月24日に積雪ゼロとなり、26年3月までに積雪した雪は、4月15日に積雪ゼロとなった。また、目視による初雪は11月11日で、前年より7日早かった。

平成25年度の羊ヶ丘観測露場における観測値は、次表のとおりである。

### 平成25年度 気象年報

北緯 42度59分42秒  
東経 141度23分26秒  
標高 146.5m

#### 1. 気温 (℃)

月	平均	最高平均	最低平均	極値最高	起日時	極値最低	起日時
H25. 4	4.7	9.1	1.3	15.6	23 12:21	-3.7	1 5:38
5	10.0	18.8	3.2	26.3	31 13:53	2.0	2 0:27
6	16.4	19.5	12.2	29.5	10 13:18	6.9	4 4:38
7	20.8	24.7	16.7	32.0	8 14:30	13.5	1 3:56
8	21.4	24.7	17.0	31.6	19 12:21	13.2	29 0:16
9	17.0	21.9	10.2	27.7	14 15:13	4.2	27 3:52
10	11.2	17.9	4.8	23.0	2 13:00	2.5	16 13:34
11	4.6	11.2	-2.0	16.4	7 11:38	-6.3	28 23:59
12	-0.9	6.3	-5.9	9.5	5 12:00	-9.7	14 6:18
H26. 1	-5.7	0.4	-9.9	7.7	30 13:48	-13.6	13 23:09
2	-5.0	1.9	-11.0	8.1	27 13:14	-16.8	8 6:41
3	-0.9	6.1	-7.5	13.4	27 14:10	-11.8	7 1:14
年	7.8	13.5	2.4	32.0	7/8 14:30	-16.8	2/8 6:41
極値				35.7	1994/8/7 14:10	-22.8	1978/2/17 3:25

2. 降水量 (mm)

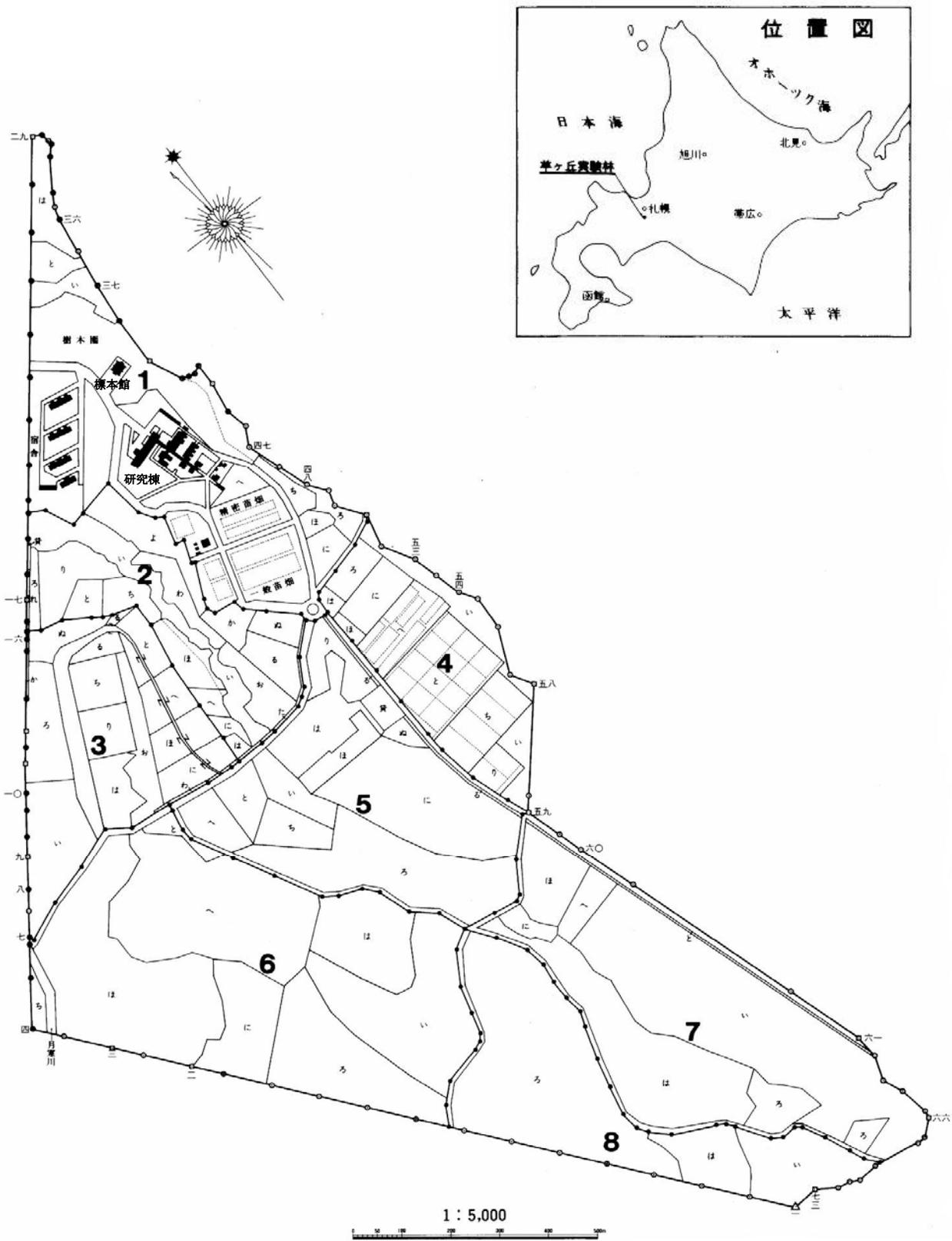
3. 積雪 (cm) (×: 欠測値)

月	総量	最大日量	起日	最大1時間量	起日	最大積雪深	起日
H25. 4	108.0	68.5	7	10.5	7	98	1
5	57.0	17.0	11	2.5	11	-	-
6	90.5	48.0	15	18.5	15	-	-
7	68.0	22.5	29	7.5	10	-	-
8	184.0	50.5	28	18.5	20	-	-
9	201.5	60.0	4	24.5	4	-	-
10	122.5	36.5	16	6.0	16	-	-
11	100.0	26.0	25	8.5	10	25	28
12	72.0	19.5	22	4.0	16	54	30
H26. 1	39.5	10.0	1	3.5	4	80	31
2	33.5	11.5	21	4.5	21	117	21
3	24.0	6.5	22	1.5	22	109	10
年	1100.5	68.5	4/7	24.5	9/4	117	2/21
最大値の記録 年降水量		最大日降水量	最大1時間降水量		最大積雪深		
最大	1490.0 (1981)	220.5	51.0		150		
最小	572.0 (2008)	1981/8/23	1979/10/4 3:00		2013/3/11		

4. 風速 (m/sec)

月	平均	最大	風向	起日	最大瞬間	風向	起日
H25. 4	2.0	7.7	S	25	19.9	SSE	7
5	2.0	7.7	S	29	16.7	S	29
6	1.3	5.9	SSE	13	14.0	S	12
7	1.7	6.2	S	3	15.8	S	3
8	1.4	5.4	S	14	13.3	S	15
9	1.4	5.3	S	5	12.9	SSE	5
10	1.3	5.4	S	11	15.8	SE	25
11	1.4	6.8	S	10	18.3	SSW	10
12	1.2	5.8	NNW	28	18.8	W	11
H26. 1	1.2	5.9	NNW	26	15.4	WNW	26
2	1.5	6.6	S	27	17.4	NNE	17
3	1.5	5.3	NNW	6	15.1	NNE	31
年	1.5	7.7		4/25 5/29	19.9		4/7

○羊ヶ丘実験林基本図



## Ⅶ. 総務

### 1. 沿革

1908年(明41)	6月	北海道庁告示第361号によって、江別村大字野幌志文別に内務省野幌林業試験場が設立された。
1927年(昭2)	9月	庁舎を江別町西野幌に新築し、移転した。
1933年(昭8)	1月	北海道林業試験場と改められた。試験部(育林、利用、科学、保護、気象)、庶務部(庶務、会計、売買)。
1936年(昭11)	10月	木材利用部新設。森林標本館が設置される。 10月7日に昭和天皇陛下が行幸され、本場並びに付属試験林を見学された。
1937年(昭12)	10月	上川森林治水保安試験所が開設された。
1939年(昭14)	8月	釧路混牧林業試験所が開設された。
1940年(昭15)	1月	帝室林野局北海道林業試験場が札幌市豊平に設立された。
1945年(昭20)	8月	野幌試験林の管理経営を札幌営林署に移管。
1947年(昭22)	5月	林政統一により帝室林野局北海道林業試験場と北海道庁所管の北海道林業試験場を合併、林業試験場札幌支場と改められた。
1950年(昭25)	4月	上川、釧路両試験所が、それぞれ試験地と名称が変わる。
	7月	札幌営林局付属「森林有害動物調査所」が札幌支場の野鼠研究室になる。
	12月	木材利用部門は、本場に集中される。
1951年(昭26)	7月	支場を札幌市におき、分室を西野幌におく(経営部、造林部、保護部、庶務課)
1953年(昭28)	10月	野幌の試験設備をすべて札幌市豊平に統合し、北海道支場と改めた。 野幌試験地が開設された。
1954年(昭29)		経営部に牧野研究室新設、調査室が庶務課から分離(昭22新設)、造林部種子研究室が育種研究室に名称変更。
1955年(昭30)		保護部病理昆虫研究室が昆虫、樹病研究室に分離増。
1961年(昭36)	5月	千歳国有林において植樹祭が行われる。昭和天皇・皇后陛下が支場に行幸された。
	11月	所期の目的が達せられたので、上川試験地は廃止された。
1965年(昭40)	4月	経営部牧野研究室が営農林牧野研究室に名称変更。
	9月	所期の目的が達せられたので、釧路試験地は廃止された。
1967年(昭42)	6月	会計課が新設された。
1968年(昭43)	10月	創立60周年となり、祝典を行う。
1969年(昭44)	4月	造林部造林研究室が造林第1、造林第2研究室に分離増。
1970年(昭45)	5月	経営部防災研究室が治山、防災研究室に分離増。
1972年(昭47)	5月	羊ヶ丘への移転計画で実験林設置が決定したため、組織上の野幌試験地は廃止された。 調査室から実験林室が分離増。
1974年(昭49)	10月	庁舎が札幌市豊平区豊平から同市豊平区羊ヶ丘へ移転し、施設の新築、整備が行われた。
1975年(昭50)	4月	保護部野鼠研究室が鳥獣研究室に名称変更。
1976年(昭51)	3月	羊ヶ丘における施設整備を完了した。
	5月	造林部の名称を育林部に変更。
1978年(昭53)	10月	創立70周年となり、一般公開及び祝典を行う。
1981年(昭56)	4月	育林部育種研究室、を遺伝育種研究室に名称変更。
1988年(昭63)	10月	農林水産省組織規程の一部改正により森林総合研究所北海道支所に改組された。育林部造林第1研究室、造林第2研究室はそれぞれ樹木生理研究室、造林研究室となり、経営部経営研究室、営農林牧野研究室はそれぞれ天然林管理研究室、経営研究室となった。また経営部治山研究室と防災研究室は統合減となり、防災研究室となった。
	10月	創立80周年となり、記念植樹を行う。
1998年(平10)	10月	創立90周年となり、一般公開及び祝典を行う。
2001年(平13)	4月	独立行政法人森林総合研究所北海道支所となり、組織が変更となった。部制、会計課及び研究室が廃止され、研究調整官、地域研究官、庶務課長補佐、5チーム長、5研究グループ(森林育成・植物土壌系・寒地環境保全・森林生物・北方林管理)が新設された。
2006年(平18)	4月	実験林室を連絡調整室へ統合し、業務係を新設した。
2007年(平19)	4月	庶務課職員厚生係を庶務係へ統合した。
2008年(平20)	10月	創立100周年となり、記念植樹及び式典を行った。
2010年(平22)	10月	育種調整監を新設した。
2011年(平23)	4月	研究調整監を産学官連携推進調整監に名称変更。
2011年(平23)	9月	11日、札幌市内にて開催の「国際微生物学連合2011会議」ご臨席のためご来道された天皇陛下が、当所標本館をご視察なされる。

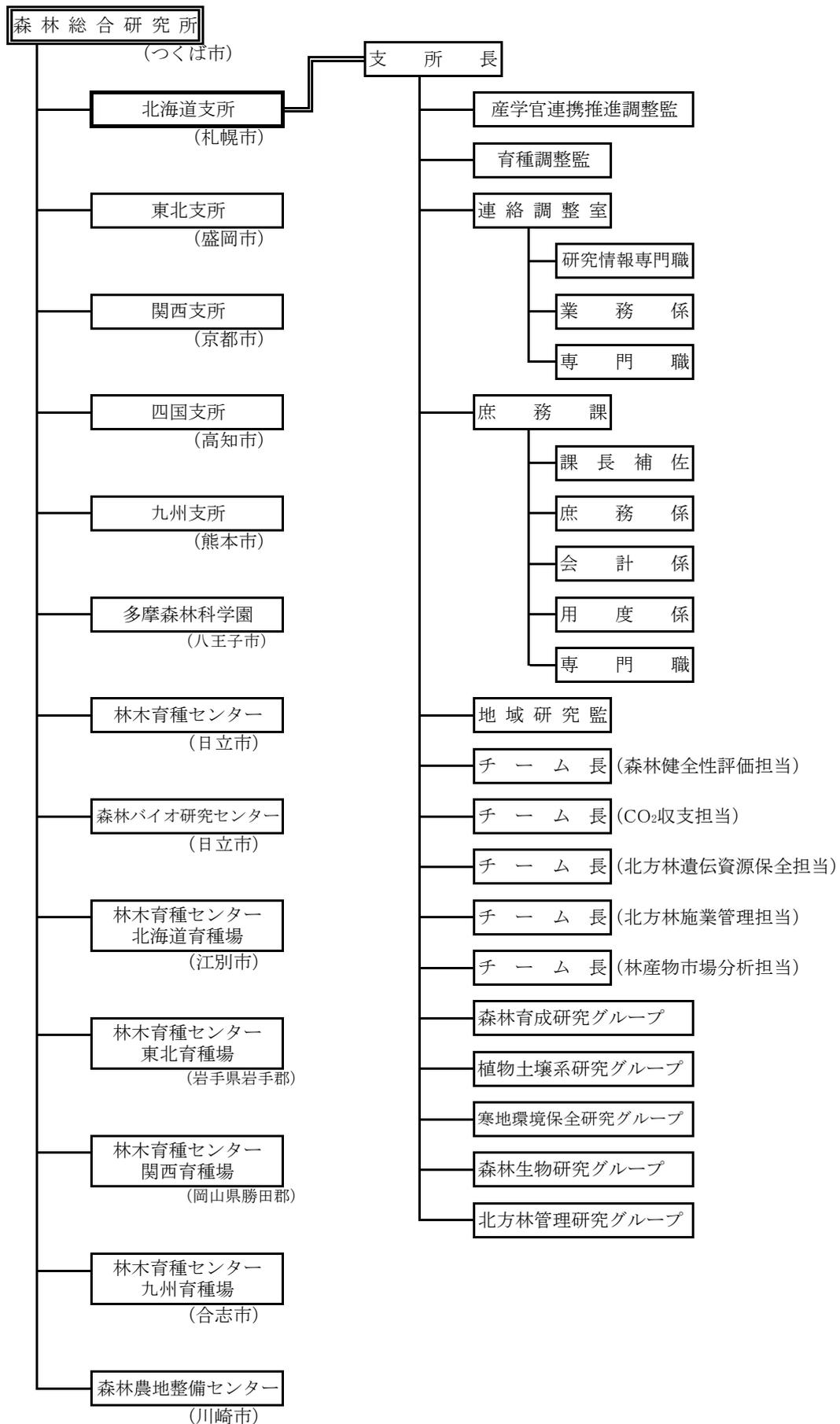
2. 土地・施設

○敷地・建物面積

(単位：㎡)

区 分	土 地 ・ 建 物		備 考
	構 造	面 積	
土 地		1,721,394	
建物敷地		55,668	
樹木園		62,900	
苗畑		38,590	
試験林ほか		1,564,236	
建 物 (延)		7,784	
研究本館	R C - 3	3,893	昭和49年8月10日 建築
特殊実験室	R C - 1	848	昭和48年4月1日 建築
生物環境調節実験施設	R C - 1	377	昭和49年10月12日 建築
野兎生態実験室	R C - 1	142	昭和48年4月1日 建築
鳥類屋外実験室	R C - 1	56	昭和49年10月12日 建築
温室	R - 1	300	昭和49年10月12日 建築
樹病隔離温室	R - 1	135	昭和49年10月12日 建築
日長処理施設	R - 1	129	昭和49年10月12日 建築
苗畑調査実験室	R C - 2	345	昭和48年4月1日 建築
鳥獣飼育場	R C - 1	222	平成15年12月18日 建築
標本館	R C - 1	392	昭和49年10月12日 建築
その他		945	

3. 組織 (平成26年4月1日現在)



4. 職員の異動（平成25年4月2日～平成26年4月1日）

○採用

発令月日	氏名	新所属	旧所属
25.10.1	津山幾太郎	研究員 (森林育成研究グループ)	

○採用(転籍)

発令月日	氏名	新所属	旧所属
25.11.16	佐藤 正人	連絡調整室	農林水産省北海道農政事務所

○転入

発令月日	氏名	新所属	旧所属
26.4.1	坂上 勉	庶務課長	北海道育種場連絡調整課長
26.4.1	山本 健一	連絡調整室研究情報専門職	九州支所連絡調整室業務係長

○転出

発令月日	氏名	新所属	旧所属
25.10.1	宮本 基杖	林業経営・政策研究領域チーム長 (木材需要構造担当)	チーム長(北方林経営担当)
25.10.1	工藤 琢磨	東北支所主任研究員 (生物多様性研究グループ)	主任研究員 (森林生物研究グループ)
26.4.1	高橋あけみ	企画部研究企画科調査係長	連絡調整室研究情報専門職

○昇任

発令月日	氏名	新所属	旧所属
26.4.1	嶋瀬 拓也	チーム長(林産物市場分析担当)	主任研究員 (北方林管理研究グループ)

○退職(転籍)

発令月日	氏名	新所属	旧所属
26.3.31	山口 彰	(独)農業・食品産業技術総合研究機構 北海道農業研究センター	庶務課長

5. 職員名簿（平成26年4月1日現在）

支所長	研究職	牧野 俊一			
産学官連携推進調整監	研究職	佐々木 尚三	森林育成研究グループ長	研究職	飯田 滋生
育種調整監（併任）	一般職	今井 啓二	主任研究員	〃	金指あや子
（林木育種センター北海道育種場長）			〃	〃	関 剛
			〃	〃	倉本 恵生
連絡調整室長	一般職	室谷 邦彦	〃	〃	津山 幾太郎
研究情報専門職	〃	山本 健一			
専門職	〃	寺田 絵里	植物土壌系研究グループ長	研究職	相澤 州平
専門職	〃	佐藤 正人	主任研究員	〃	上村 章
業務係長	〃	佐藤 孝一	〃	〃	橋本 徹
係員	技術専門職	長澤 俊光	〃	〃	伊藤江利子
			〃	〃	原山 尚徳
庶務課長	一般職	坂上 勉	寒地環境保全研究グループ長	研究職	山野井克己
課長補佐	〃	渡邊 謙一	主任研究員	〃	溝口 康子
庶務係長	〃	横濱 大輔	〃	〃	延廣 竜彦
専門職	〃	近藤 洋美			
会計係長	〃	神田 光紀	森林生物研究グループ長	研究職	尾崎 研一
用度係長	〃	内山 拓	主任研究員	〃	平川 浩文
専門職	〃	吉田 厚	〃	〃	石原 誠
係員	〃	土谷 直輝	〃	〃	佐山 勝彦
			任期付職員	〃	松浦友紀子
地域研究監	研究職	田中 信行	北方林管理研究グループ長	研究職	八巻 一成
チーム長	研究職	山口 岳広	主任研究員	〃	古家 直行
（森林健全性評価担当）					
チーム長	〃	韓 慶民			
（CO <sub>2</sub> 収支担当）					
チーム長	〃	北村 系子			
（北方林遺伝資源保全担当）					
チーム長	〃	石橋 聡		研究職	28 名
（北方林施業担当）				一般職	13 名
チーム長	〃	嶋瀬 拓也		技術専門職	1 名
（林産物市場分析担当）					（併任を除く）

6. 事業予算額

(1) 事業予算額

(単位：千円)

事業科目名		予算額
<b>事業費</b>		<b>25,889</b>
<b>一般研究費</b>		<b>18,995</b>
	A/北海道	4,351
	B/北海道	563
	D/北海道	2,697
	E/北海道	972
	F/北海道	690
	G/北海道	1,866
	I/北海道	120
	機械整備費	7,736
<b>特別研究費</b>		<b>6,221</b>
	交プロ/北海道	6,221
<b>基盤事業費</b>		<b>673</b>
	基盤/北海道	673
<b>政府等受託事業費</b>		<b>24,477</b>
<b>農林水産省受託事業費</b>		<b>16,617</b>
	農林水産技術会議事務局受託事業	16,257
	林野庁受託事業	360
<b>環境省受託事業費</b>		<b>7,860</b>
	地球環境保全等試験研究費	3,063
	公害防止等試験研究費	4,247
	環境研究総合推進費受託業務	550
<b>政府外受託事業費</b>		<b>4,532</b>
	特殊法人等受託事業費（委託元政府）	3,604
	特殊法人等受託事業費（委託元政府外）	928
<b>科学研究費補助金</b>		<b>25,372</b>
<b>寄付金事業</b>		<b>400</b>
<b>林野庁補助事業</b>		<b>173</b>
<b>研究管理費</b>		<b>44,279</b>
<b>一般管理費</b>		<b>45,079</b>
<b>施設整備費補助金</b>		<b>152,635</b>
合 計		<b>322,836</b>

(2) 収入契約

(単位：千円)

事業科目名		予算額
事業収入		
	調査等依頼収入	1034
事業外収入		
	資産貸付収入	97
合 計		<b>1131</b>

---

2015年3月発行

平成26年版 森林総合研究所北海道支所年報

編集・発行 独立行政法人森林総合研究所北海道支所（担当：連絡調整室）  
〒062-8516 北海道札幌市豊平区羊ヶ丘7番地  
TEL(011)851-4131 FAX(011)851-4167  
URL <http://www.ffpri.affrc.go.jp/hkd>

---

本誌から転載・複写する場合は、森林総合研究所北海道支所の許可を得てください。

表紙写真：森林総合研究所北海道支所 正門